

ラ・セーヌ小台自治会

地区防災計画

令和 3 年 3 月 策定

令和 7 年 3 月 修正

ラ・セーヌ小台自治会

目 次

1 地区防災計画とは	1
(1) 地区防災計画の目的と位置づけ	1
(2) 地区防災計画の対象、範囲等	1
(3) 地区防災計画の構成	2
(4) 実践と検証	3
(5) 計画の見直し	4
2 地区特性	6
(1) 地区の成り立ちと現況	6
(2) 水害の被害想定	11
(3) 地震の被害想定	12
3 水害時の対応シナリオ	15
(1) 水害が予想される場合の防災行動の概要（分散避難）	15
(2) 水害が予想される場合の対応シナリオ	15
(3) 水害時避難施設	15
(4) 小台・宮城地区コミュニティタイムラインの検討	21
(5) 小台・宮城地区水害に関するアンケート結果	22
(6) コミュニティタイムラインの作成	28
4 地震発生時の対応シナリオ	31
(1) 地震発生時の対応シナリオ	31
(2) 地区防災マップ	31
5 ラ・セーヌ小台自治会における平時の備え	36
(1) 事前対策リスト	36
(2) 日頃の取り組み	38
※ 様式・資料編	40
資料 1 様式集	41
参考様式 1 緊急時連絡先一覧表	41
参考様式 2 備蓄品リスト	42
参考様式 3 自治会年間スケジュール	43
参考様式 4 防災区民組織名簿	44
資料 2 スマートフォン用防災アプリ「足立区防災アプリ」	45
資料 3 A-メール（足立区メール配信サービス）	45
資料 4 あだち安心電話	46
資料 5 感震ブレーカーの設置助成	47
資料 6 防災無線のテレホン案内	48
資料 7 足立区 LINE 公式アカウント	48
資料 8 浸水ナビ（地点別浸水シミュレーション検索システム）	49
資料 9 東京備蓄ナビ	51

1 地区防災計画とは

(1) 地区防災計画の目的と位置づけ

足立区は、河川が運んできた土砂の堆積により陸地が形成された沖積低地であり、区全域が海拔2m前後で、北西部がやや高く、南東部にかけて緩やかに傾斜しながら下り、一部では海拔0m地帯を形成しています。

小台・宮城地区は、荒川がすぐ近くを流れており、過去に荒川が氾濫したこともあることから、台風や大雨の際には洪水の危険性が非常に高い地域です。

一方で、東日本大震災や熊本地震、平成30年西日本豪雨などの近年の災害においては、地域住民自らによる「自助」、地域コミュニティによる「共助」が、避難行動、避難誘導、避難所運営等において重要な役割を果たしています。

そこで、ラ・セーヌ小台自治会では、自助・共助による地域防災力を向上させ、大規模水害時の地域の被害を軽減することを目的として、コミュニティタイムラインについて検討し、「ラ・セーヌ小台自治会地区防災計画」を策定しました。

また、令和6年度には計画の見直しを行い、地震発生時の行動等についても追加しました。

地区防災計画は、災害が起きることを想定し、そのための準備と災害時の自発的な行動を検討し、私たち地区に居住する者が自らつくる計画です。

今後、必要に応じて改定していきます。

(2) 地区防災計画の対象、範囲等

対象とする災害	水害・地震 (令和2年度は水害に重点をおいて検討)
対象とする範囲	ラ・セーヌ小台自治会 (避難所、避難場所への避難経路も対象)
対象者	ラ・セーヌ小台自治会の居住者、事業者など自治会内にいるすべての人
対象時期	水害；台風接近時～初動活動～避難行動 地震；地震発生時～初動活動～避難行動

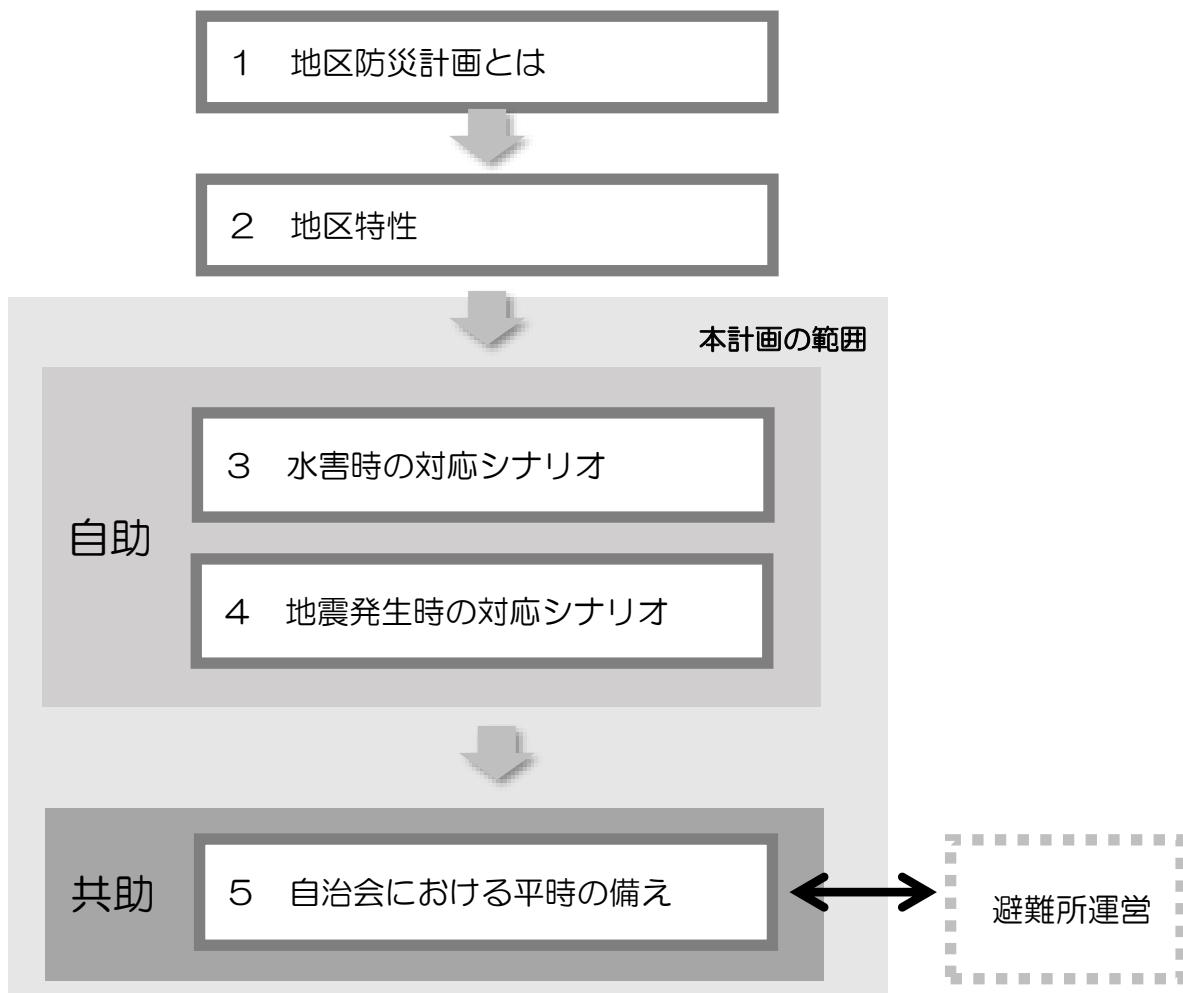
1 地区防災計画とは

(3) 地区防災計画の構成

本計画では、「2 地区特性」で自分たちの地域について知るための資料を整理し、「3 水害時の対応シナリオ」、「4 地震発生時の対応シナリオ」で地域住民自らによる「自助」、すなわち、事前の防災行動や、水害や地震が発生した場合にどこに、どのように避難するかを整理しました。

「5 自治会における平時の備え」では、自治会及び地区住民等において進めるべき「共助」の考え方、平常時において準備しておく事項等を記載しています。

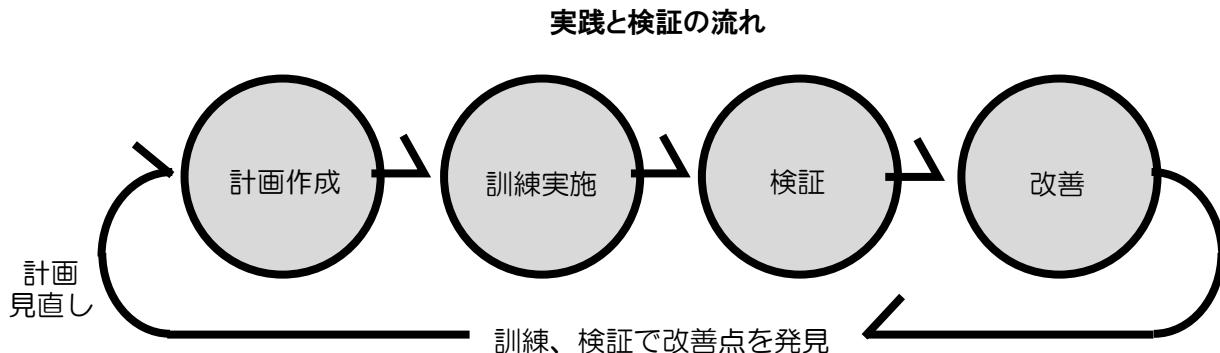
最後に、資料として情報収集の手段について記載しています。



注) 本計画では、水害については、水害が予想される場合の準備行動から、避難するまでの考え方や手順を、地震については、発生直後から避難するまでの考え方や手順を整理しています。避難所を設置したのちの避難所運営は、他の計画（避難所マニュアル等）に従うこととします。

(4) 実践と検証

計画を形骸化させないため、以下のような取り組みを行います。



計画に基づいた防災訓練を行います。

■防災訓練

避難時の訓練	応急訓練	避難後の訓練
<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練 ○避難所・避難路・避難場所等の確認 ○避難経路上の危険箇所の確認 ○要配慮者の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○浸水対策訓練 (土のう造り・積上訓練等) ○救急応急措置訓練 (心肺蘇生法・AED 講習等) ○防災資機材取扱訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所開設訓練 ○避難所運営訓練 (給食・給水、情報の収集・共有・伝達、物資配給対応等)

※訓練は、区や消防署、消防団、各種団体や地元企業等と連携したものにすると、より実効性が高まります。



防災訓練の結果について、区職員等を交えて検証を行い、課題を把握して活動を改善します。

- 活動の対象範囲や活動体制
(役割分担) を変える必要はないか
- 地区における重要なことに変化はないか

- 長期的な活動予定に変更はないか
- 実際の活動が実体のあるものになっているか
- 防災訓練、備蓄等の事前対策、教育・研修等が十分に行われているか

実践と検証を通じて、計画の実効性を確保します。
必要に応じて、計画の見直し、追加等を行います。

見直した場合は、自治会を通じて区に報告するとともに、説明会やチラシ等により地区住民等の皆さんに報告します。

1 地区防災計画とは

(5) 計画の見直し

令和6年度に地区防災計画見直しワークショップを行った結果、次のような地区の課題や意見が出され、その対応策を本計画に盛り込むこととしました。

■地区の課題と対応策

課題（意見含む）	対応策
<ul style="list-style-type: none">場所の問題もあり、自治会で備蓄はできないので、各個人での備蓄を推奨しているが、備蓄すべき品目や在宅避難時の行動について概要版に記載されていない。東京備蓄ナビに関する案内を出したい。また、地震の際の禁止事項について概要版に記載しないといけない。	<ul style="list-style-type: none">各家庭で備蓄すべき品目、東京備蓄ナビの案内、在宅避難における注意事項について、「東京くらし防災」や「東京防災」の記載も踏まえて、概要版に追記した。
<ul style="list-style-type: none">「東京くらし防災」や「東京防災」にも備蓄品の説明等が記載されている。	
<ul style="list-style-type: none">災害時にトイレが使用できなくなることを周知する必要がある。	<ul style="list-style-type: none">簡易トイレの備蓄について概要版、計画書に追記した。
<ul style="list-style-type: none">避難所運営訓練を実施しており、町会の中で避難所を開ける役割の方がいる。避難所の運営の際は2か所分の人員が必要になるのか。どちらの避難所を先に開けるかを決めておかないとといけない。	<p>【区】今は避難所運営訓練をする方たちが分かれて行うしかない。2か所開けるかどうかは、その時にできるかできないかによる。臨機応変に決めるしかない。</p> <p>どちらを先に開けるか、避難所運営会議の中で議論していただければと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none">地震と水害で運営は異なるのか。	<p>【区】地震の場合はその建物が使えるかどうかというところから始まる。2つの避難所のうち片方が使えない、もう一方を開けることになる。また、水害の場合、1階、2階は浸水してしまうので、3階以上に避難することになる。</p> <p>水害は事前に来ることがわかるが、地震はわからない。水害の場合は事前に避難所を開けることができるが、地震は災害が発生してから避難所を開けるしかないというのが一番大きな違いである。</p>

課題（意見含む）	対応策
<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の小学校と中学校はどの程度の震度まで耐えられるのか。震度7でも耐えられるようになっているのか。 	<p>【区】小中学校は通常の建物の1.5倍の強度になっているので、基本的には大丈夫であると思っていただいて構わない。ただし、体育館の天井が崩落するなどの事例があり、そのあたりは地震が起きた後目視で建物が大丈夫かどうか、区の職員が現地確認する手はずになっている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・小台二丁目は木造住宅が密集しているので火災の危険性が非常に大きい。感震ブレーカーが早く普及される手を考えないといけない。極端な話として100%助成するというのもあるのではないか。 	<p>【区】どこまでできるかということはあるが、感震ブレーカーの設置助成は区も力を入れて実施している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・水害時の避難方法で分散避難などがあるが、区長からの文面で避難所には来ないでくださいということがA-メールで流れている。 ・分散避難はどのくらい認識されているのか。 ・広域避難は対象になっているのか。 	<p>【区】避難所もどうしてもスペースが限られているので、別の避難の形を取れる方は避難所ではなく別のところに避難していくことで、より多くの必要とされる方が避難できるようになる。分散避難については、まだこれから発信していかないといけない。</p> <p>【区】広域避難施設といって、足立区外のところにいくつか場所を構えて避難するという想定はあるが、今の時点で具体的にどこに避難してほしいということは言えない。足立区だけではできないので、東京都や国と連携して話を進めている。</p>

2 地区特性

(1) 地区の成り立ちと現況

①地形

まわりよりもわずかに高い自然堤防が形成されている土地が周囲にありますが、自治会内は盛土地・埋立地となっています。

盛土地・埋立地は、軟弱な粘土やシルト*が厚く分布しているため、地震時には揺れやすいとされています。標高は1m以上3m未満となっています。

*シルト：砂より小さく、粘土より粗い破屑物（岩石が壊れてできた破片・粒子）をシルトと言います。

■土地条件図

自然堤防

（洪水時に運ばれた砂等が、流路沿いに堆積してできた微高地）

盛土地・埋立地

（低地に土を盛って造成した平坦地や、水部を埋めた平坦地）

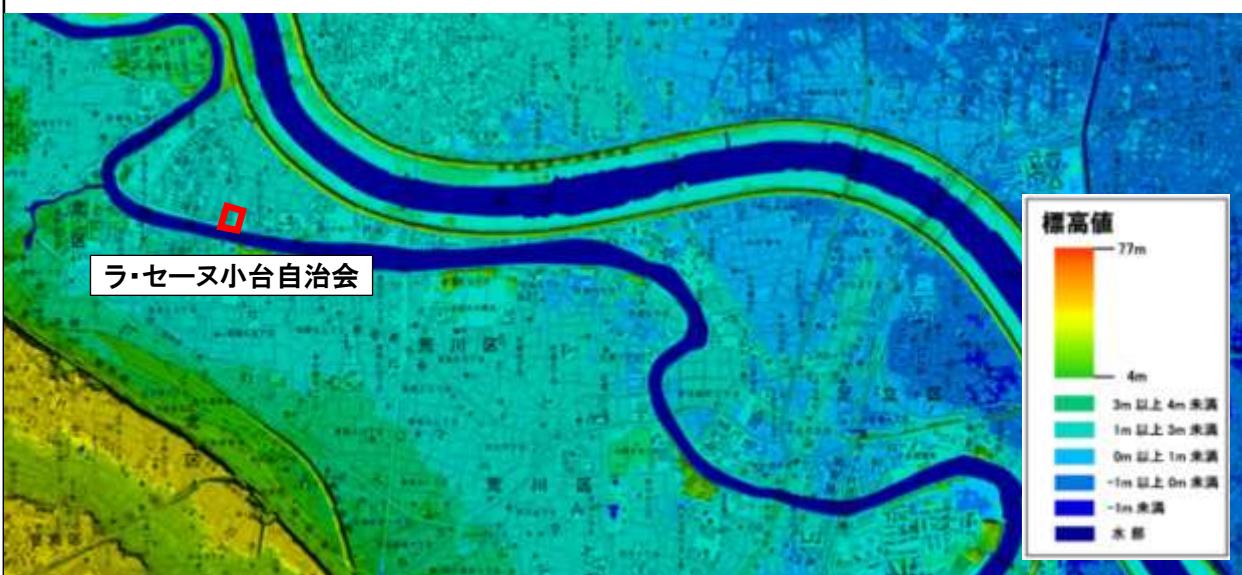
河川敷・浜

（増水時に水没する河川敷や、高波で冠水する沿岸地）



出典：国土地理院「数値地図 25000（土地条件）」

■標高



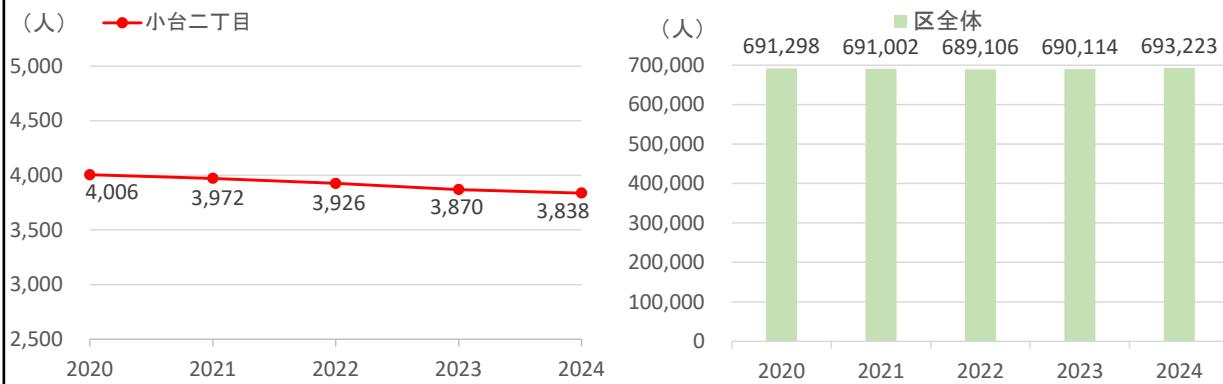
出典：「デジタル標高地形図」（国土地理院）

②人口・世帯数

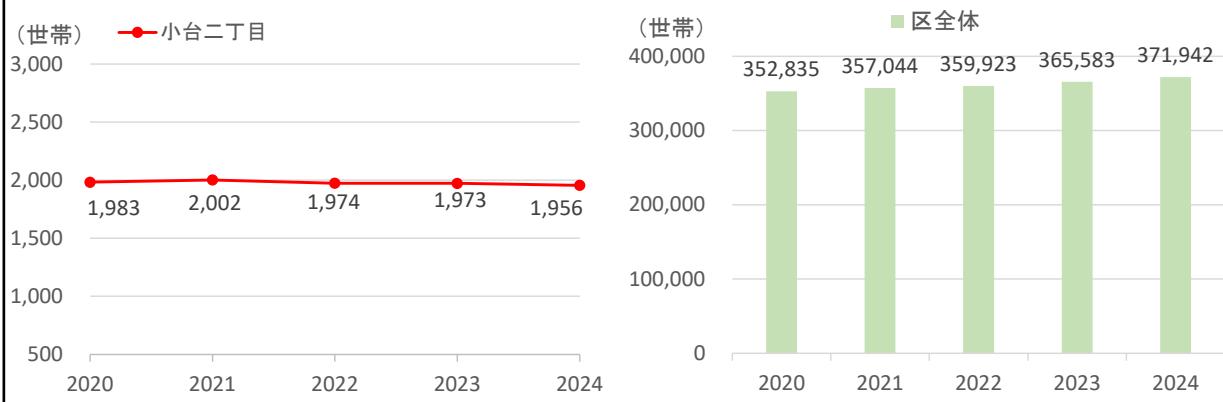
小台二丁目の人口・世帯数は 3,838 人、1,956 世帯となっています（住民基本台帳、令和 6 年 1 月 1 日現在）。

最近 5 年間の推移を見ると、人口および世帯数ともに減少傾向となっています。

＜人口＞



＜世帯数＞

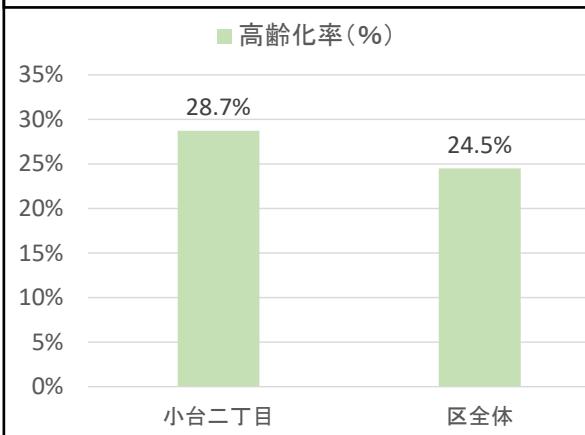


出典：住民基本台帳

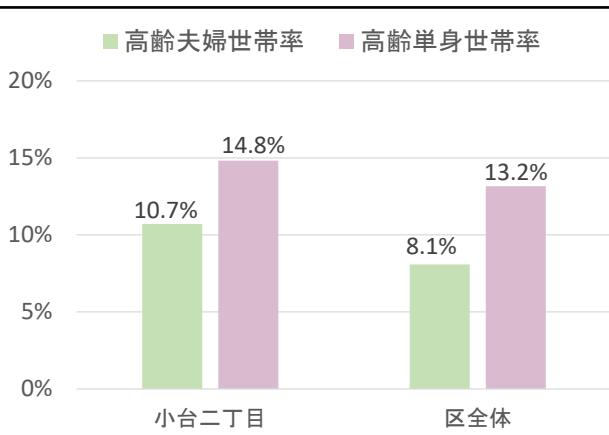
③高齢化（65 歳以上の人口）の状況

小台二丁目の高齢化率（令和 2 年）は 28.7% と区全体より高い水準にあります。また、高齢夫婦世帯の割合は 10.7%、高齢単身世帯の割合は 14.8% といずれも区全体より高い状況にあります。

＜高齢化率＞



＜高齢者世帯の状況＞



出典：令和 2 年国勢調査

2 地区特性

④用途地域

自治会内は工業地域となっており、周辺は工業地域、準工業地域等に指定されています。



＜凡例＞

用途地図	
■	近隣商業地域
■	準工業地域(特別工業地区)
■	準工業地域
■	工業地域
■	工業専用地域
都市施設	
■	都市計画公園・緑地
地区計画等	
■	地区計画区域

- 工業地域：どんな工場でも建てられる地域です。住宅やお店は立てられますが、学校、病院、ホテルなどは建てられません。
- 準工業地域：主に軽工業の工場やサービス施設等が立地する地域です。危険性、環境悪化が大きい工場のほかは、ほとんど建てられます。
- 工業専用地域：工場のための地域です。どんな工場でも建てられますが、住宅、お店、学校、病院、ホテルなどは建てられません。
- 近隣商業地域：まわりの住民が日用品の買い物などをするための地域です。住宅や店舗のほかに小規模の工場も建てられます。

出典：「用途地域等指定図」

⑤用途別建物現況

自治会内は集合住宅となっており、周辺は集合住宅や独立住宅等が分布しています。



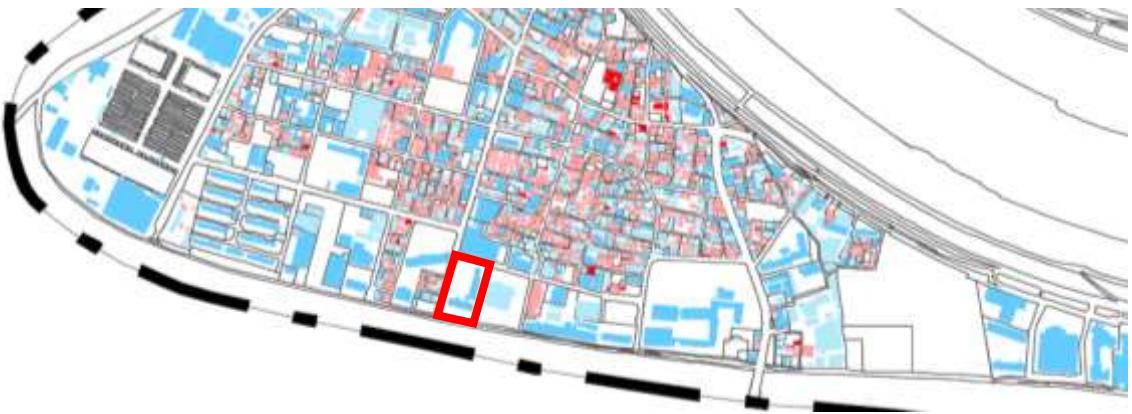
＜凡例＞

■	官公庁施設	■	スポーツ・興行施設	■	屋外利用地等	■	樹園地
■	教育文化施設	■	独立住宅	■	その他	■	水面・河川・水路
■	厚生医療施設	■	集合住宅	■	公園・運動場等	■	原野
■	供給処理施設	■	専用工場	■	未利用地等	■	森林
■	事務所建築物	■	住居併用工場	■	道路		
■	専用商業施設	■	倉庫運輸関係施設	■	鉄道・港湾等		
■	住商併用建物	■	農林漁業施設	■	田		
■	宿泊・遊興施設			■	畠		

出典：「令和3年度土地利用現況調査」

⑥構造別建物現況

自治会内は耐火造であり、周辺は耐火造あるいは防火造になっています。



〈凡例〉

■ 耐火造

主要な構造部分（柱・梁・壁・屋根等）が鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、耐火被覆した鉄骨造、れんが造、石造等でできているもの

■ 準耐火造

外壁が耐火造で屋根がコンクリート等の不燃材料でできている、または柱及び梁が不燃材料で外壁及び屋根等が防火造でできているもの、または木造以外で耐火造に属さないもの

■ 防火造

柱及び梁が木造で屋根及び外壁がモルタル、漆喰等の準不燃材料でできているもの

出典：「令和3年度土地利用現況調査」

⑦階数別建物現況

自治会内は高層階であり、周辺も高層階の建物、独立住宅では2～3階建てが分布しています。



〈凡例〉

■	1階
■	2階
■	3階
■	中層階(4～7階)
■	高層階(8階以上)

出典：「令和3年度土地利用現況調査」

⑧都市計画道路の整備状況

都市計画道路は、補助93号線が自治会の北側に、補助91号線が自治会の西側に計画されています。

<凡例>

- 整備済
- 事業中
- 計画



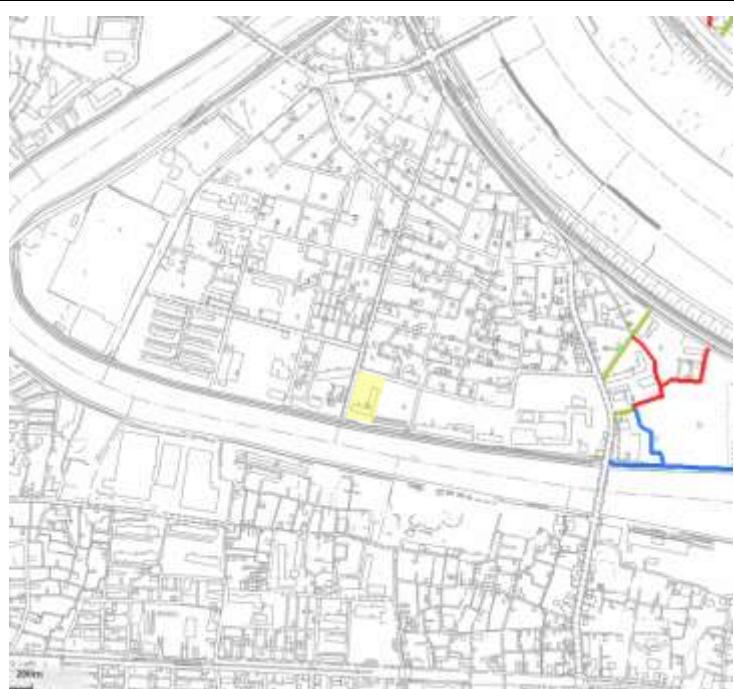
出典：「足立区都市計画図」
(令和6年4月現在)
下地図は国土地理院地図を使用

⑨細街路の状況

自治会の周囲には、4mに拡幅すべき細街路が残っています。

<凡例>

色	細街路の種別
■	幅員4m以上ある路線
■■	幅員4mに拡幅すべき路線
■■■	幅員4mで築造すべき路線



出典：「細街路路線図」(あだち地図情報
提供サービス)

(2) 水害の被害想定

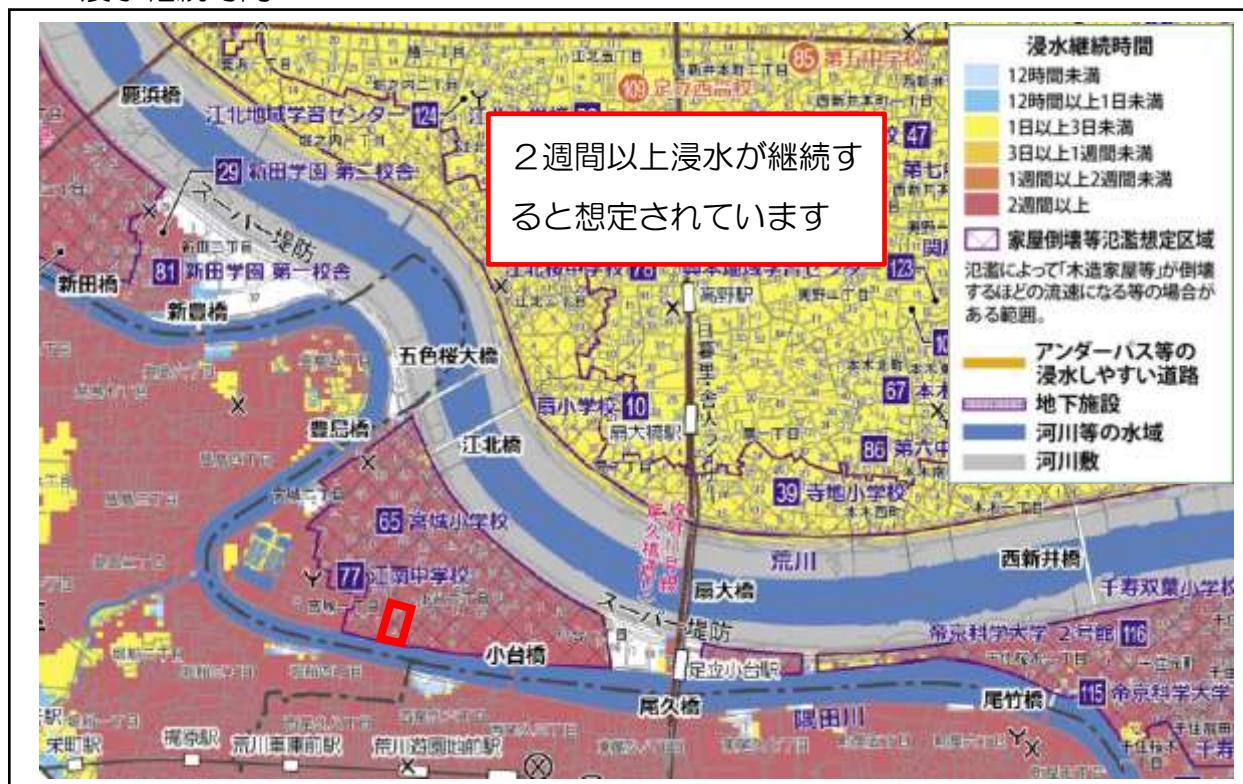
ラ・セーヌ小台自治会において、河川氾濫による水害が想定される河川として、荒川があります。

①足立区洪水ハザードマップ

■最大浸水深



■浸水継続時間



(3) 地震の被害想定

①首都直下地震の被害想定の概要

南関東地域における首都直下地震（マグニチュード 7.3 規模）の発生確率は、今後 30 年以内に 70%といわれています。

■首都直下地震(都心南部直下地震)における足立区の被害想定

(M7.3、冬の夕方、風速 8m/秒)

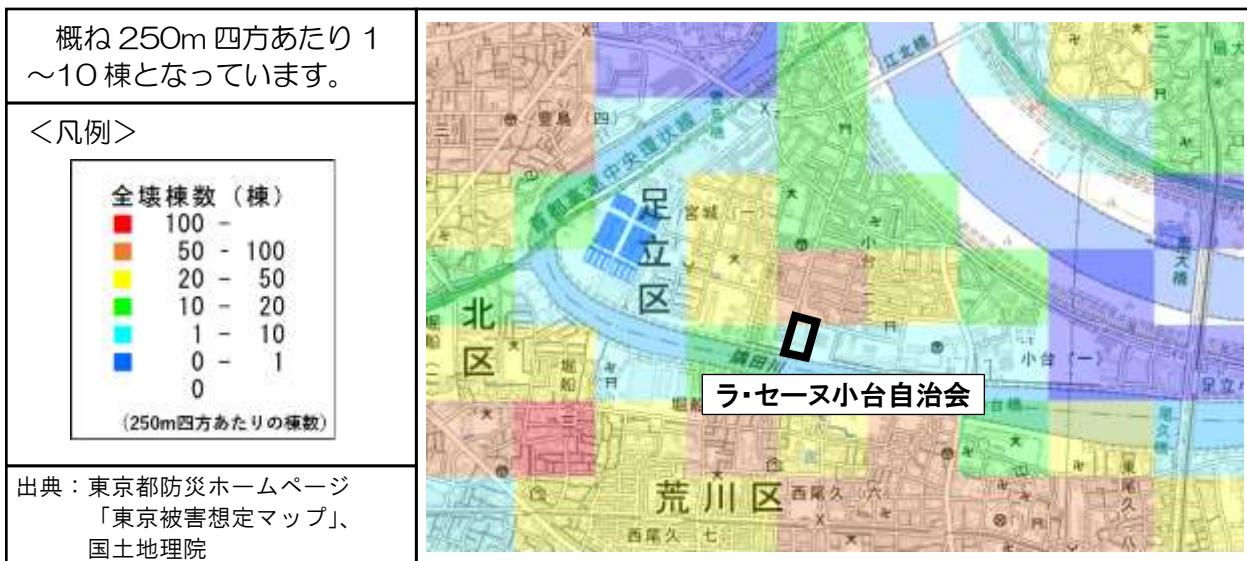
被害区分	被害の規模	参考	
死者	795 人	区の夜間人口の	0.11%
負傷者	8,507 人	〃	1.2%
建物全壊	11,952 棟	区の全建物棟数の	8.2%
建物焼失	13,546 棟	〃	9.3%
避難者	286,932 人	区の夜間人口の	41.3%
帰宅困難者	44,303 人	区の昼間人口の	7.3%

出典：東京都「首都直下地震等による東京の被害想定」（令和 4 年 5 月 25 日公表）

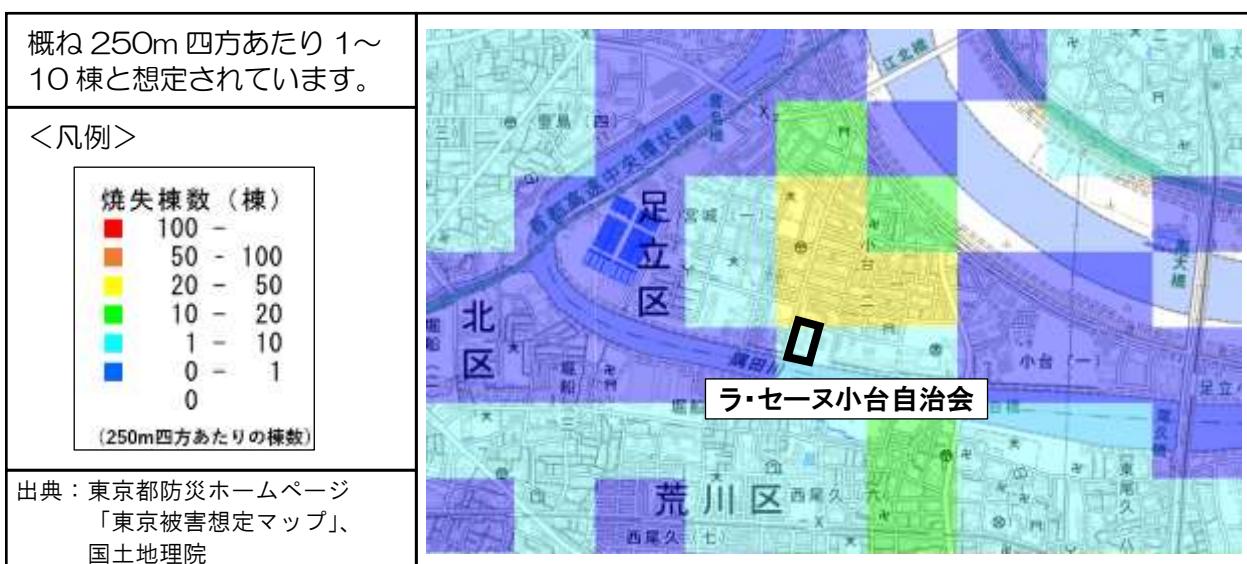
■首都直下地震(都心南部直下地震)の地震動分布



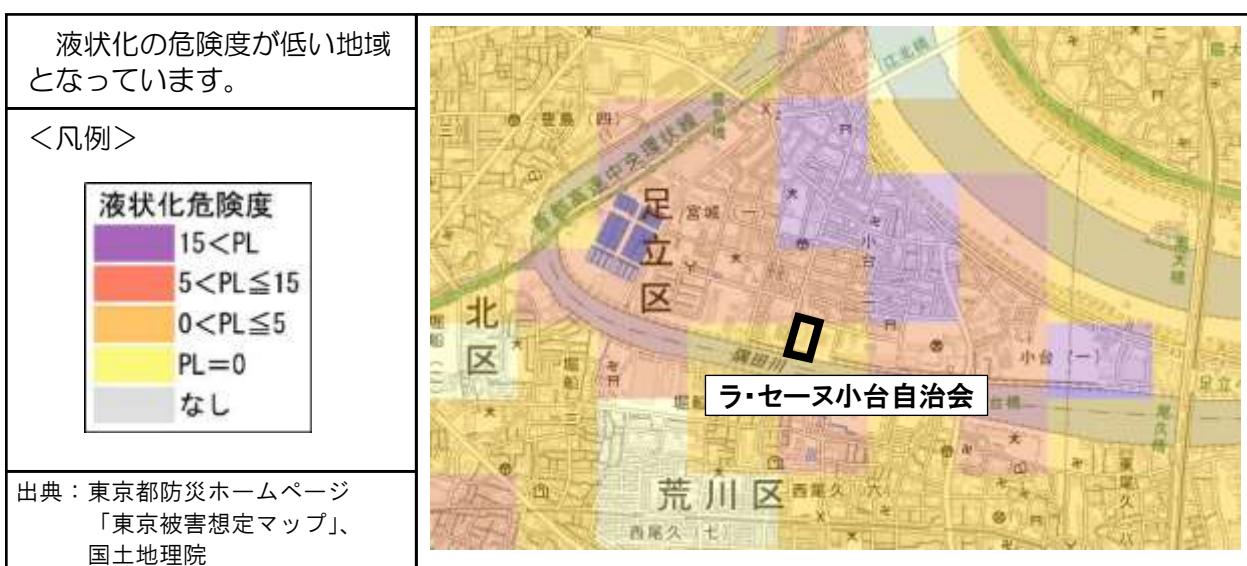
■建物全壊棟数



■建物焼失棟数



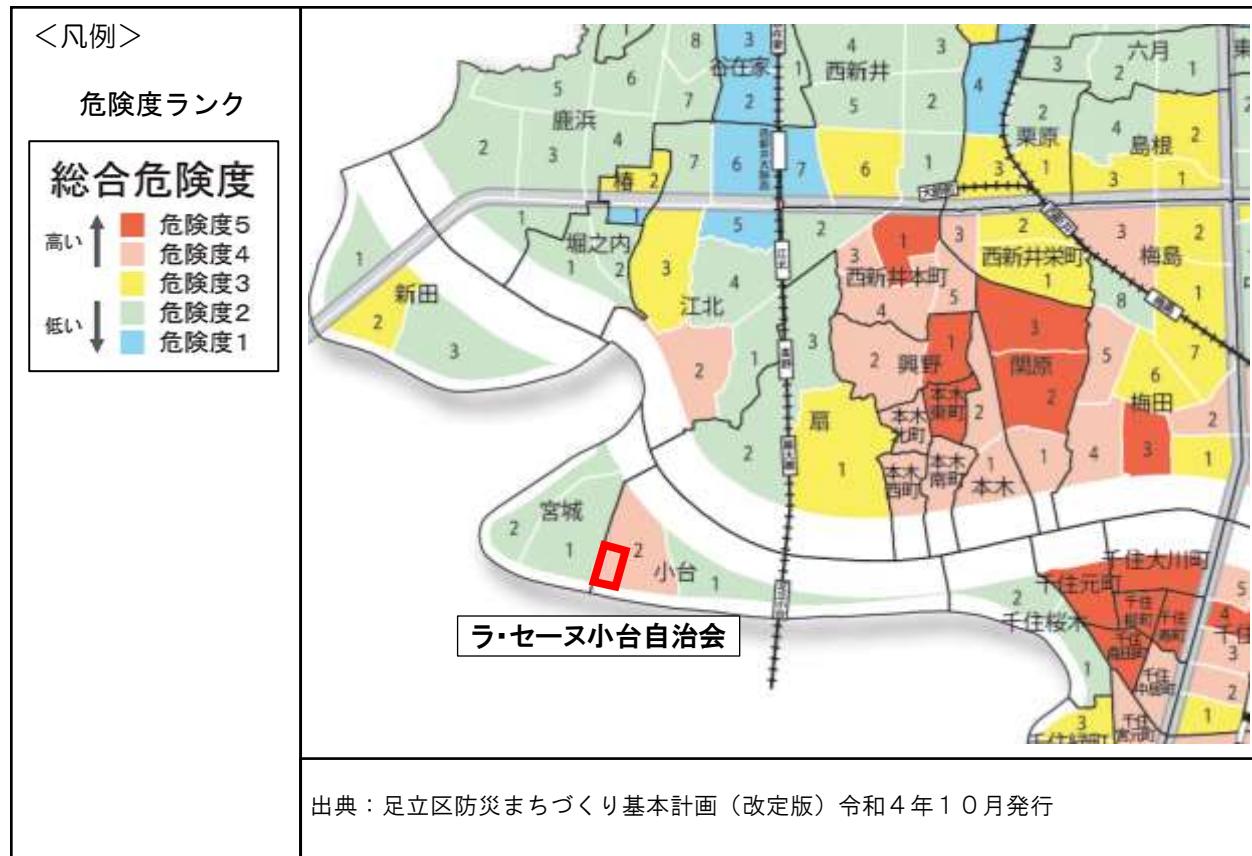
■液状化危険度



②地域危険度※1

東京都「足立区防災まちづくり基本計画（改定版）（令和4年10月発行）」によると、この地域は建物倒壊危険度、火災危険度、災害時活動困難度を考慮した総合危険度※2について危険度が4になっています。（都内5,192町丁目の中で総合危険度が、小台二丁目は354位）

■地震に関する地域危険度



※1 地域危険度は、都内の町丁目の地震に対する危険性を比較するため、特定の地震を想定するではなく、全ての町丁目直下の地盤で同じ強さの揺れが生じた場合の危険性を測定しています。

※2 総合危険度とは、区民の皆さんのまちの地震の危険性を分かりやすく示すために、地震の揺れによる建物倒壊や火災の危険性を1つの指標にまとめたものです。

3 水害時の対応シナリオ

（1）水害が予想される場合の防災行動の概要（分散避難）

平常時の備えから、台風等が発生した際の情報収集から避難までの行動の目安をP16、17に整理しています。

（2）水害が予想される場合の対応シナリオ

水害が予想される台風等が発生してから洪水に至るまでに発令される避難情報をP18、19に整理しています。

（3）水害時避難施設

水害時避難施設のマップをP20に示しています。

水害が予想される場合の防災行動の概要

三密
対策

分散避難

避難所には多くの方が来ます。三密を避けるため、自宅の浸水リスクを把握し、避難所以外へ「分散避難」ができるか事前に検討をお願いします。

STEP 1 足立区洪水ハザードマップで、自宅の浸水リスクを確認



河川（荒川、利根川、江戸川、中川、綾瀬川、芝川・新芝川）ごとに水害を想定。避難方法を考えるために、まずは自宅や周辺の浸水する危険性を確認しましょう。ハザードマップは、都市建設課、区民事務所で配布しています。

問い合わせ先 都市建設課 企画調整担当

☎ 3880-5349



▲区のホームページでも閲覧可

避難方法の判断ポイント！



浸水深



浸水継続時間

河川ごとに確認！ハザードマップにメモしておこう！

STEP 2 自宅の浸水リスクを踏まえ、避難方法を検討

自宅の「浸水深」「浸水継続時間」を把握して、下記のフローチャートを参考に避難方法を考えましょう。

＼スタート／

自宅が浸水地域にある

いいえ はい

自宅に
浸水しない階がある

いいえ

自宅が
「家屋倒壊等氾濫想定区域」
にある

いいえ

はい

自宅が丈夫な建物である
(木造などではない)いいえ
はい

縁故等避難

浸水の恐れない家族・親戚・知人の家やホテルなどへ、公共交通機関が止まる前に避難

日ごろから親戚や知人に連絡しておく



車移動も早めに！水位が上がってからは洪水に巻き込まれる可能性があるため危険！



在宅避難・縁故等避難が難しい場合

避難所への避難

非常用持ち出し品を持ち、風雨が強くなる前に避難

こんな事例も……

令和元年東日本台風で決壊した千曲川（長野県）付近の避難者のうち約5割が、風雨が強く、河川の水位が高い一番危険な時間帯に避難しており、いつ命を落としてもおかしくない状況だった。

高齢者など、一人で避難するのが大変な方が近所にいる場合は一緒に移動



在宅避難

自宅に留まる。

戸建てなどで浸水する階がある場合は、浸水しない階へ移動

電気・ガス・トイレなどの代替品や、「浸水継続時間」に合わせた必要な量の食料・日用品を用意



不安がある場合はためらわず
浸水しない地域へ！

正しい避難行動のためには、最新の情報を入手することも重要です。



いざ
避難

避難所でのルールを守る

必ずルールを守り、避難者同士で助け合い円滑な運営にご協力ください。

開設と受け付け

災害対策本部が避難所開設を決定し、区職員を配備

荒川氾濫が予想される場合、避難所（区立小・中学校など）を一斉開設します。そのほかの河川の場合は気象情報などをもとに判断します。



避難中

避難所の居室は浸水しない最上階から利用

浸水する階にある体育館や部屋は、受付などで一時的に使用する場合を除き、避難者用の居室には使用しません。



閉鎖

雨が止んでも危険は去らない

令和元年東日本台風は通過後に荒川の水位は上昇し続けていました。区から、避難情報の解除や避難所閉鎖の決定があるまでは、避難所に留まってください。



ペット動物との同行避難

受け付け時にペット登録カードを記入し、ペット動物用居室へ。飼い主とは原則居室が異なります。



避難当日の食料・水の提供は行いません

区の備蓄品は河川が氾濫し、避難の長期化が見込まれる場合に使用します。必ず食料2食分・水、タオルの用意を！

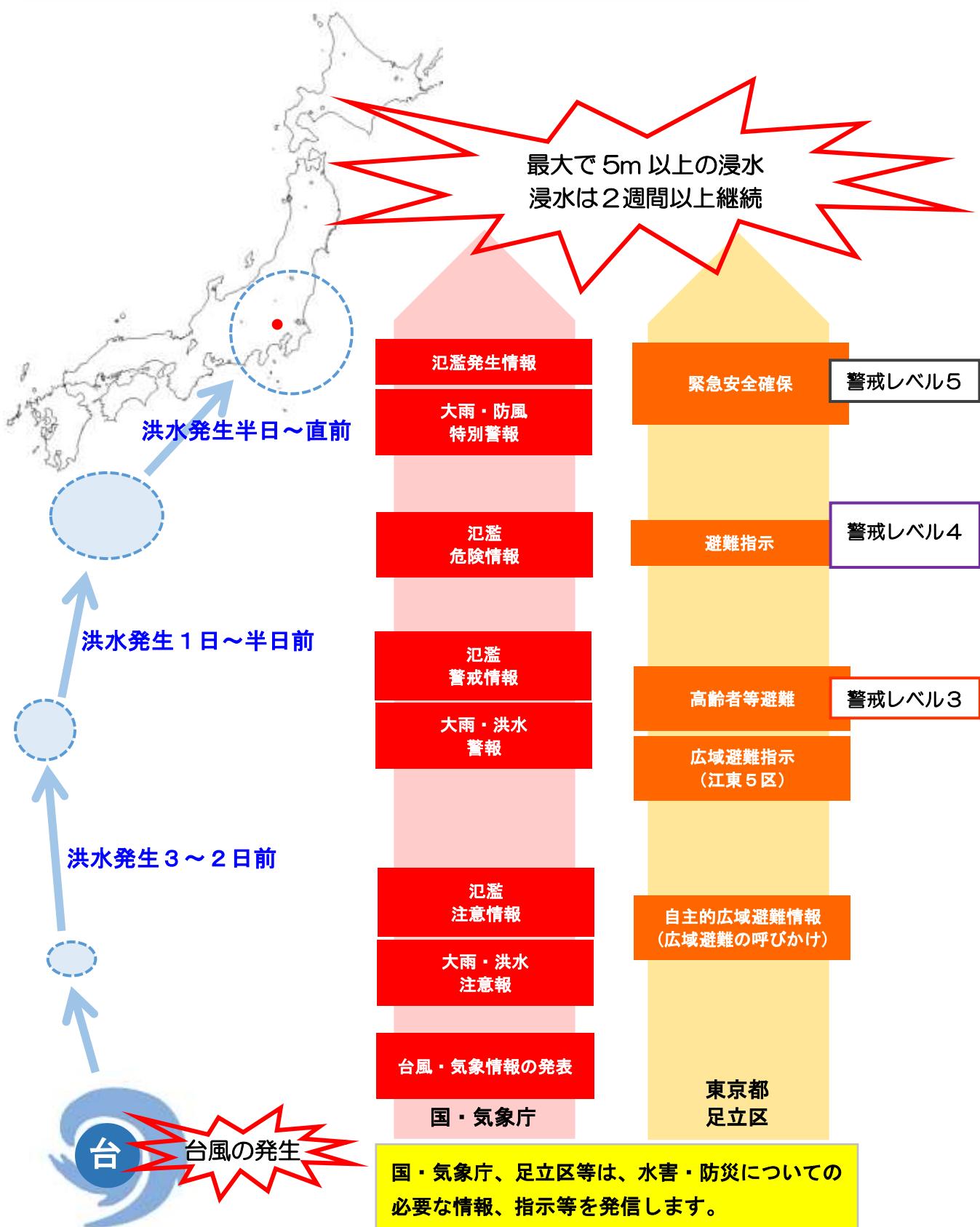


ゴミは各自持ち帰りが原則

使用した部屋の清掃、毛布等の返却にもご協力をお願いします。



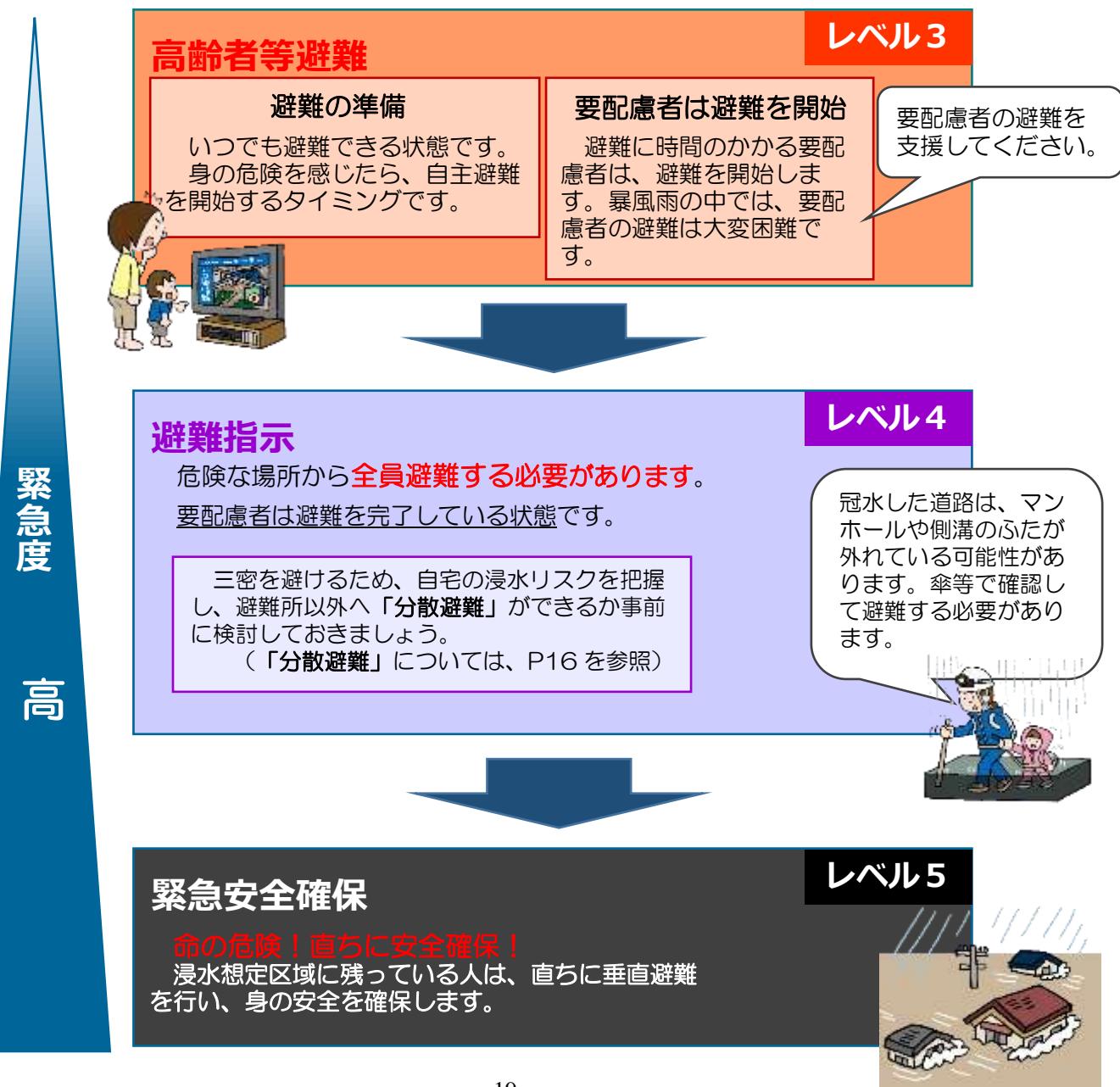
水害が予想される場合の対応シナリオ



■水位変化・危険レベルと



■避難情報について



ラ・セーヌ小台自治会 水害時避難施設

避難所

宮城小学校

荒川が氾濫した時

浸水深 ▶ 4.61 m

使用可能階数 ▶ 3 階以上 (3階建)

50 cm浸水
継続時間 ▶ 27日20時間

避難所

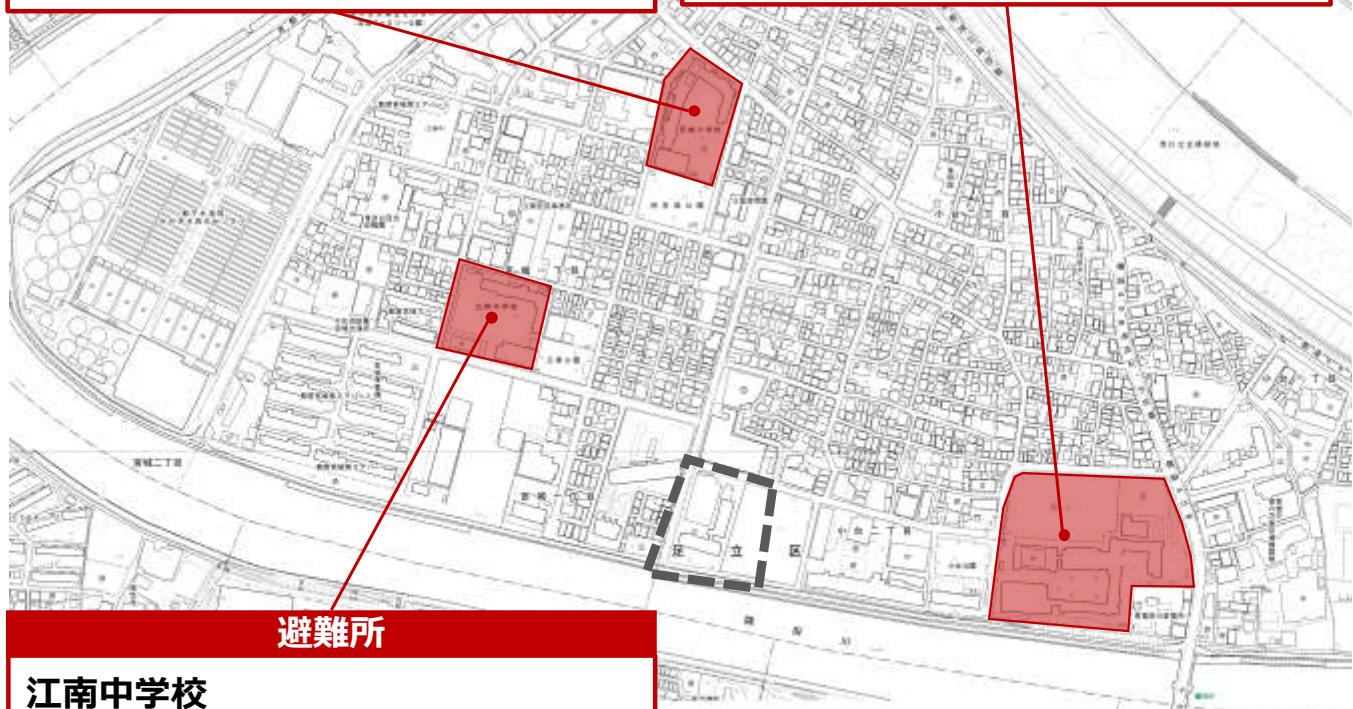
小台橋高校

荒川が氾濫した時

浸水深 ▶ 3.87 m

使用可能階数 ▶ 3 階以上 (4階建)

50 cm浸水
継続時間 ▶ 27日19時間



避難所

江南中学校

荒川が氾濫した時

浸水深 ▶ 4.60 m

使用可能階数 ▶ 3 階以上 (4階建)

50 cm浸水
継続時間 ▶ 27日20時間

事前確認

避難所以外にも水害時に避難が可能な建物を事前に確認しておきましょう

(4) 小台・宮城地区コミュニティタイムラインの検討

小台・宮城地区において、令和元年度に「コミュニティタイムライン勉強会」、令和2年度に「小台・宮城地区コミュニティタイムライン検討部会」を設け、足立区総合防災行政アドバイザーを交えての勉強会や、3回の話し合い（ワークショップ方式）により、水害対策のコミュニティタイムラインの検討を行いました。検討は江南連絡協議会（小台町会、宮城町会、宮城第三団地自治会、尾久橋スカイハイツ自治会、ラ・セーヌ小台自治会、ライオンズマンション荒川遊園アクアステージ自治会）合同で行いました。

「小台・宮城地区コミュニティタイムライン検討部会」のスケジュールは、下表のとおりです。

小台・宮城地区コミュニティタイムライン検討部会の経緯

年度	年月日	検討、説明会等	テーマ・実施内容
令和元年度	12月2日	第1回勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティタイムライン（CTL）とは ・今後のスケジュール案について
	1月21日	第2回勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・まち歩きを通じて地区のリスクを確認する ・中川地区からCTLの作り方と効果を学ぶ
	1~3月	小台・宮城地区 住民向け 水災害に関する住民アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・水災害に関する住民アンケート調査 ・調査設計、調査票作成、配布・回収
令和2年度	6月27日	第1回策定ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・小台・宮城地区住民アンケートの結果 ・地区の浸水リスクを知る ・大規模水害時の避難を考える ・避難先までの時間を考える
	7月18日	第2回策定ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川の洪水特性と河川情報を知る ・避難行動を考える ・行動の主体を考える ・連絡体制を考える
	9月6日	第3回策定ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・策定したコミュニティタイムラインを試行する ・コロナ禍を想定した避難所運営訓練（江南中学校）
令和4年度	3月5日	フォローアップワークショップ	・区庁内タイムラインに合わせて、CTLタイムラインステージを3日前から4日前に変更する

コミュニティタイムラインとは、風水害の予報や河川水位情報等をもとに避難のタイミングや取るべき防災行動について地域コミュニティで話し合い、「いつ・誰が・何をするか」を定めた行動計画のこと。

3 水害時の対応シナリオ

（5）小台・宮城地区水害に関するアンケート結果

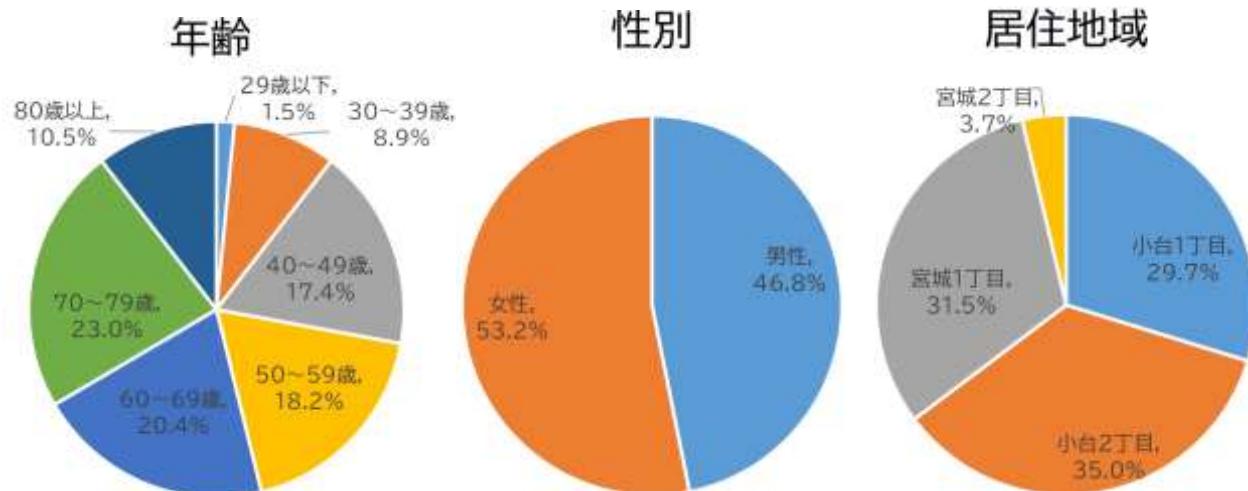
コミュニティタイムラインを検討するにあたり、小台・宮城地区における水害に関する住民アンケートを行いました。

小台・宮城地区水害に関する住民アンケートの概要

調査対象	足立区小台1丁目～2丁目/宮城1丁目～2丁目 全世帯 5,468世帯
調査方法	郵送調査
調査期間	令和2年3月25日～4月17日 ※4月22日回収分まで
有効回答数	1,396（回収率：25.53%）

小台・宮城地区における水災害に関する住民アンケートの主な結果は、以下のとおりです。

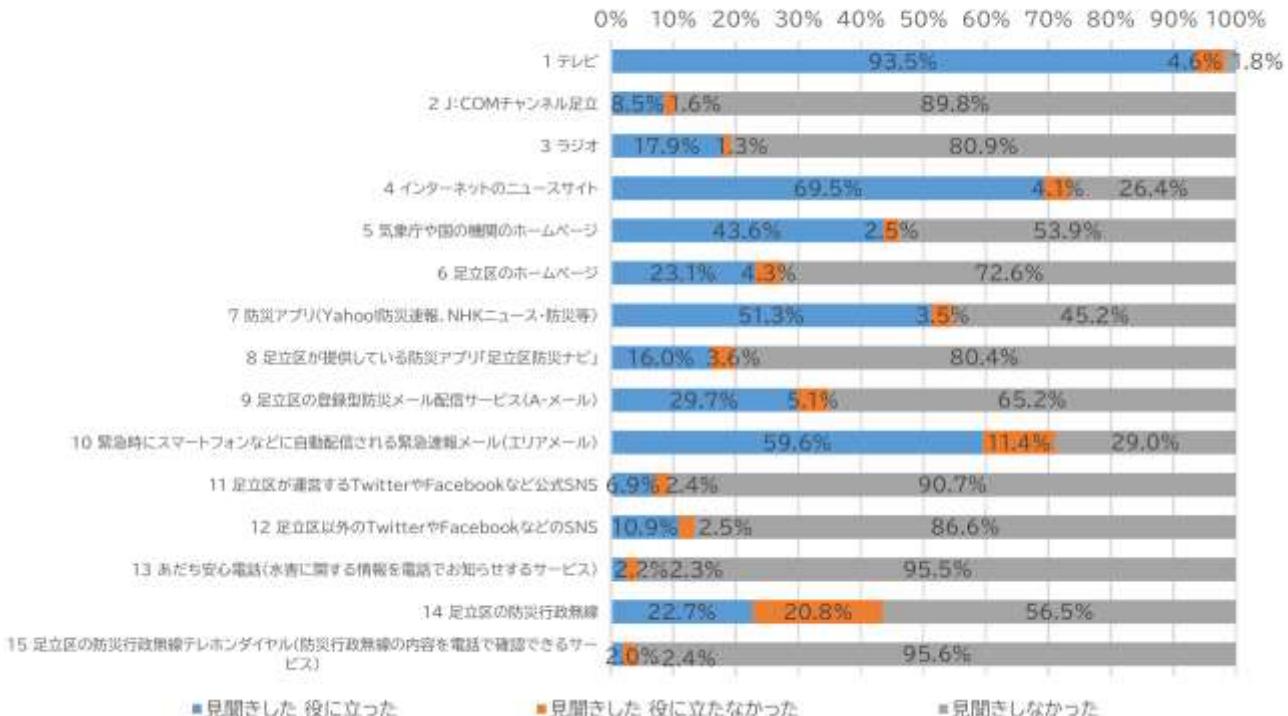
○回答者の主な属性



○情報を入手した手段

- ・テレビ(93.5%)やネットニュース(69.5%)、緊急速報メール(59.6%)、防災アプリ(51.3%)の利用率・役に立った人が多い。
- ・防災行政無線(20.8%)や緊急速報メール(11.4%)には改善が必要。

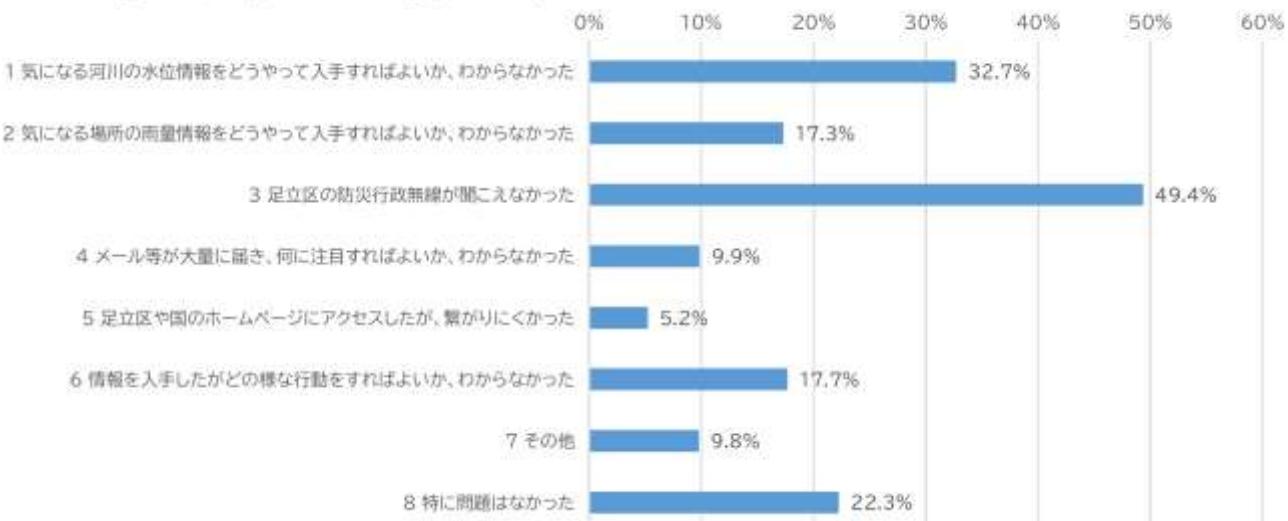
問6 あなたは、今回の台風の降雨や河川氾濫、避難に関する情報を、何で見聞きしましたか。またそれは役に立ちましたか。それぞれ、あてはまるものを1つお選びください(それぞれ○は1つずつ)。



○情報入手での問題点

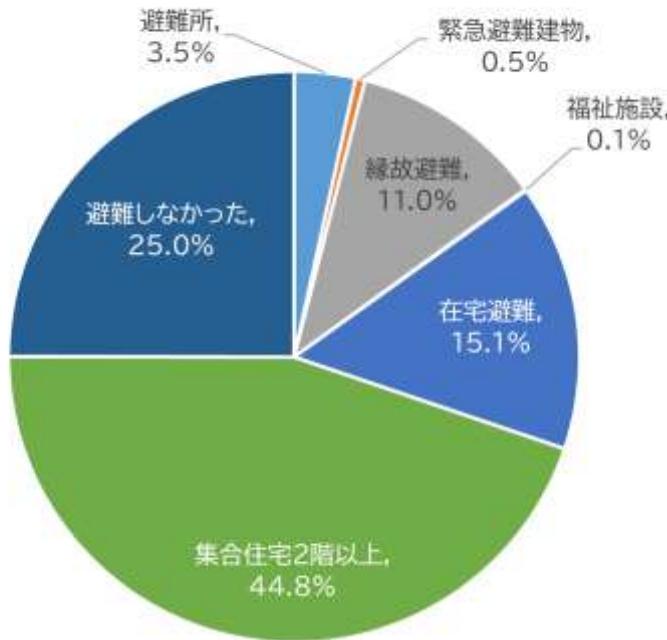
- ・防災行政無線が聞こえない(49.4%)が最も多い。
- ・水位の情報の入手方法が分からぬ人(32.7%)も多かった。
- ・ホームページのキャパシティに問題を感じた人は少なく(5.2%)、また情報が多くて何に注目すればよいか分からなかったと感じた人も比較的少なかった(9.9%)。

問8 あなたが、今回の台風で情報を入手している中で、次のような問題は生じましたか。あてはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも可)。(n=1339)



○台風 19 号時の避難行動

問9 実際にあなたは在宅避難も含めて避難しましたか。あなたの行動に最も近いものを1つお選びください(○は1つ)。



- ・避難所や緊急避難建物・親戚知人宅・福祉施設などに避難した人が 15.1%
▶水平避難者
- ・在宅避難や集合住宅の2階以上にいた人が59.9%いた。
▶垂直避難者
- ・避難しなかった人が25.0%
▶避難なし

○台風 19 号時の避難行動に着目して(水平避難者)

水平避難者:台風第19号時に、避難所・緊急避難建物・親戚知人宅・福祉施設等への避難した人

問18 あなたは、今後、今回のような規模の台風が接近した場合、避難しますか。	N	Q9 (台風19号で避難したか?)		
		全体	水平避難	垂直避難
1 足立区内の指定避難所に避難する	22.1%	26.8%	18.0%	27.7%
2 足立区内の家族の家に避難する	4.9%	15.8%	2.6%	3.5%
3 足立区内の友人・知人の家に避難する	2.2%	8.4%	0.9%	1.6%
4 足立区外の家族や友人・知人の家などに避難する	10.4%	27.9%	6.3%	8.9%
5 その他の安全な場所に避難する	9.4%	15.8%	7.4%	9.6%
6 自分や家族の事情で避難できない	5.3%	2.1%	6.3%	4.8%
7 避難はしない	45.5%	3.2%	58.4%	43.9%

課題

コロナ対策をした避難所は、
収容人数が不足する



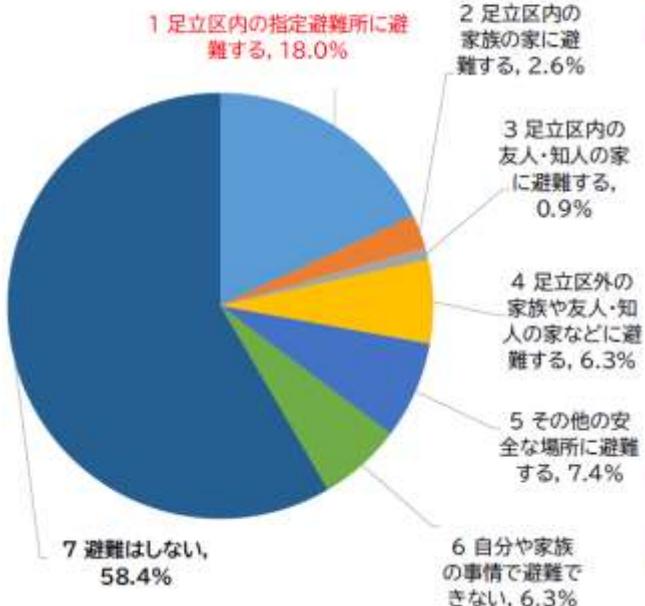
縁故等避難の積極的な推進

“早めに動いて、気楽な避難”

○台風19号時の避難行動に着目して(垂直避難者)

垂直避難者:台風第19号時に、在宅避難などを選択した人

問18 あなたは、今後、今回のような規模の台風が接近した場合、避難しますか。N=743



垂直避難(在宅避難)が出来る人が避難所に行くと

- ・感染リスクを高めかねない
 - ・避難所のキャパを埋めてしまう
- 等の課題がある。

ただし、垂直避難(在宅避難)をすると

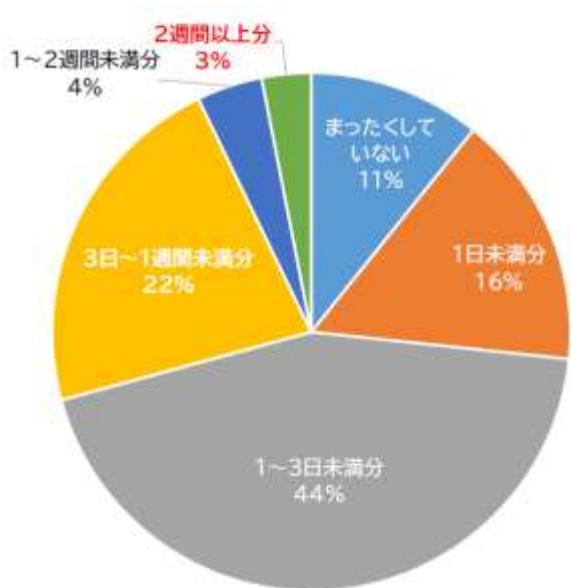
- ・浸水後に長期間孤立してしまう
- ・救助がなかなか来ない
- ・物資が底尽きる

等の課題がある。

垂直避難には“強い覚悟・精神力”と“2週間以上孤立可能な準備”が必要な避難行動だと認識

垂直避難者:台風第19号時に、在宅避難などを選択した人

問21 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料など、どの程度の備蓄を用意していますか。N=743



小台・宮城地区では荒川氾濫時に、最大2週間以上の浸水継続が予想されているが2週間分以上備蓄している人はわずか3%

いざというときに買いに行っても、品薄や欠品が発生することに注意が必要



台風第19号時のホームセンター

3 水害時の対応シナリオ

○台風 19 号時の避難行動に着目して(避難しなかった人)

避難なし:避難しないことを選択

問5 あなたは、10月12日(土)から13日(日)にかけて、雨の様子や河川の氾濫する可能性を示す情報を入手しましたか。	全体 N	Q9(台風19号で避難したか?)		
		水平避難	垂直避難	避難なし
1 台風の進路等の情報	90.9%	92.6%	92.9%	88.0%
2 早期注意情報(警報級の可能性)	36.4%	39.5%	38.0%	32.8%
3 大雨警報	80.4%	80.0%	82.3%	76.3%
4 洪水警報	60.5%	63.2%	64.4%	51.4%
5 大雨警報(浸水害)の危険度分布	40.1%	49.5%	40.8%	33.8%
6 洪水警報の危険度分布	27.9%	38.4%	28.1%	19.9%
7 府県気象情報など降雨予想量・風の予想	36.7%	39.5%	37.5%	30.9%
8 河川の水位	56.9%	60.5%	58.1%	51.4%
9 その他	7.7%	11.6%	7.2%	7.3%
10上記のうち、入手していた情報はない	0.8%	0.0%	0.6%	1.6%



水平避難者や垂直避難者と比べて、情報への感度が低い

問22 あなたは、水害に直面した(あるいはしそうになった)場合、どのようなことが心配ですか。

※あてはまる+ややあてはまるの比率 ※NIは小項目ごとに異なるため省略	全体	Q9(台風19号で避難したか?)		
		水平避難	垂直避難	避難なし
1 自分のいる地域や場所の危険性がわからない	51.2%	49.2%	46.6%	62.9%
2 避難するタイミングがわからない	71.7%	70.9%	69.7%	78.0%
3 避難する場所がわからない	45.3%	46.8%	44.8%	46.5%
4 水害に関する情報の入手方法がわからない	40.3%	42.9%	37.2%	45.7%
5 水害に関するどの情報を見ればよいのかわからない	43.6%	47.6%	41.0%	47.0%
6 具体的にどう行動すればよいのか分からず	56.0%	58.8%	55.2%	57.0%
7 寝たきりの人や一人で避難出来ない人の避難支援をどうするか知りたい	66.4%	78.4%	64.5%	65.3%
8 区の水害に対する備えや対策が十分かどうか	71.5%	79.3%	70.0%	72.2%

地域の危険性や避難するタイミングへの認識が弱い

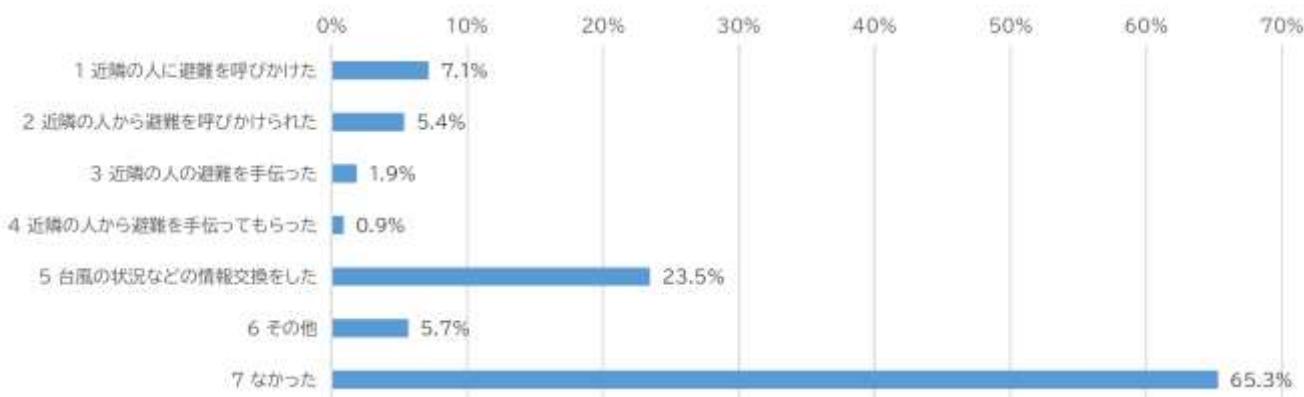


「情報共有」「声かけ」などの行動で改善できる可能性がある

○台風 19 号時のその他の行動

・近隣の人との助け合いは、主に情報交換

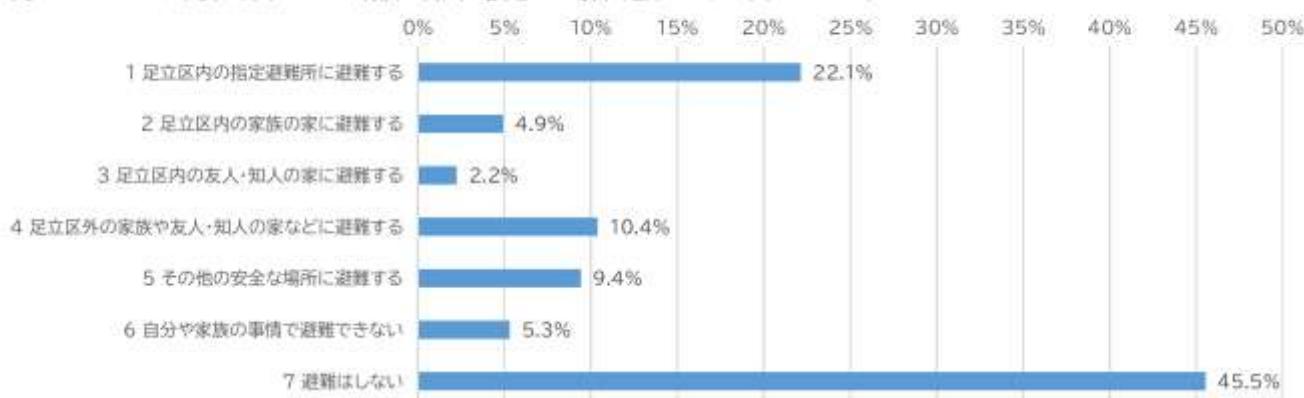
問17 今回の台風の間、あなたは近隣の人と助け合うようなことはありましたか。あなたの行動に近いものをすべてお選びください(○はいくつでも可)。(n=1,343)



○今後の避難行動

・今後、避難しないという人が半数近くいる。

問18 あなたは、今後、今回のような規模の台風が接近した場合、避難しますか。(n=1337)



3 水害時の対応シナリオ

（6）コミュニティタイムラインの作成

ラ・セーヌ小台自治会では、令和2年度の「小台・宮城地区コミュニティタイムライン検討部会」において、台風の発生から災害の発生までを、ステージ1から5までの5段階に分け「いつ」「誰が」「何を」行うのか、時系列に沿って決めた「荒川の氾濫に備えたラ・セーヌ小台自治会コミュニティタイムライン」を作成しました。

その後も引き続き検討を行っており、令和4年度時点の検討結果をP29に示しています。

ラ・セーヌ小台自治会 コミュニティタイムライン(事前防災行動計画) 試行運用版 ver2023年3月5日

基本的な考え方

- 1人も被害者を出すことなく避難する。
- 要支援者または高齢者の避難を助ける方法を考えておく。
- ステージ3で避難する。
- 当地区に避難場所がないので他地区の高台に避難することへの対応
- 日頃からマンション内のコミュニケーションが取れる準備をしておく。

普段からやっておくこと

- マンションの放送で的確な指示が出せる準備。
- 備品をどこに置けるか考える(役員、理事)
- 各階担当を決めて声掛けを行う。(役員)
- マンション内での有志(ボランティア)ができる人を探しておく。
- 名簿を準備しておく。有事に直接伝達する。(玄関先)
- 名簿の準備(会長)
- 全館放送を行う(役員)
- 放送は自治会長が行う。
- ボランティアの組織作り

タイムインステージ	現象・状況	情報【発信者】	おもな対応				
			区役所	町会長	役員・班長	住民・要支援者	避難する場所
1 関心を向ける(4日前)	・台風による関東地方への影響の可能性がある	・ニュース【テレビ等】 ・気象・台風情報【気象庁】	・区行事等中止の連絡 ・コロナ渦での避難の注意点を呼びかけ	TV・ラジオの情報に注意を払うように指示 避難可能な場所を放送する 予報に基づく注意喚起の呼びかけ	情報に注意を払い、今後の行動に備える 名簿の確認	水、食料品の備蓄備蓄品の準備	—
2 避難に向けた準備(3日前)	・台風による関東地方への影響の可能性がある ・埼玉県秩父周辺で72時間予想雨量が400mmを超過する予想	・ニュース【テレビ等】 ・気象・台風情報【気象庁】	・避難に必要な準備を呼びかけ ① 備蓄品等の確認 ② 避難先への連絡	要支援者に連絡して、どのような行動をとるか確認 現状を伝え避難がある旨を伝える	要支援者の避難方法を事前に確認する 避難場所を確認してもらう	避難情報(場所)の収集	・区外や安全な地域の家族・知人宅
3 分散避難開始(2日前)	・台風の首都圏への接近 ・埼玉県秩父周辺で48時間予想雨量が400mmを超過する予想 ・鉄道等で計画運休の検討が始まる	・ニュース【テレビ等】 ・気象・台風情報【気象庁】 ・台風説明会、記者会見等の開催【気象庁】	・災害対策本部の設置 ・縁故等避難開始の呼びかけ ・避難所開設時期の決定・開設の準備	避難場所を伝える 要支援者の避難確認	各自で縁故避難 備蓄品を確認 要支援者の方々の避難誘導	—	・区外や安全な地域の家族・知人宅
4 高齢者等避難開始(1日前)	・大雨・洪水注意報(東京) ・足立区が暴風域に入る予想	・大雨・洪水注意報【気象台】 ・高齢者等避難の発令【足立区】	・高齢者等避難の発令 ・避難所の開設	高層階への避難指示(低層階で残っている人向け)	避難誘導を実施 避難者の支援(可能なのか)	避難場所運営の準備	・区外や安全な地域の家族・知人宅 ・指定避難場所
5 避難の実施(12時間前)	・大雨・洪水警報 ・暴風警報 ・避難判断水位超過の見込(治水橋)	・避難指示の発令【足立区】	・避難指示の発令 ・避難所の開設	<p style="text-align: center;">支援活動の終了 全員避難の徹底 <避難情報解除まで戻らない!!></p>			
台風の最接近・氾濫の発生							

3 水害時の対応シナリオ

4 地震発生時の対応シナリオ

（1）地震発生時の対応シナリオ

地震が発生してから、まず自分の身を守り、その後状況に応じて一時集合場所へ避難、さらに避難場所へ避難するなどの対応シナリオとともに、その際の行動の目安を P32、33 に整理しています。

（2）地区防災マップ

防災に関する地域の資源、要注意箇所等を「地区防災マップ」として P34、35 に整理しています。

地震発生時の対応シナリオ

【災害対策本部】

自治会災害対策部が災害対策本部を立ち上げます。

【一時集合場所】

一時集合場所は、町会・自治会単位で一時的に集合して様子を見る場所です。



一時集合場所には次の役割があります。

1) 二段階避難において

- ①情報伝達や各種連絡の場
- ②近隣相互の助け合いや安否確認
- ③警察・消防等の指示のもとで避難場所へ避難

2) 延焼火災の危険がない場合において

- ①地域内における初期消火や救出救護活動などの拠点

【避難場所】

荒川南岸・河川敷緑地一帯

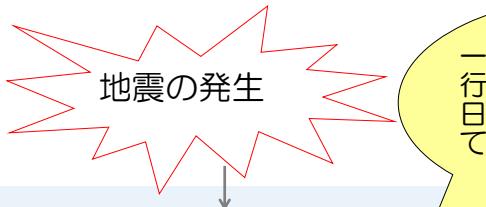
避難場所は、大地震時に発生する延焼火災やそのほかの危険から、身の安全を守るために必要な広さなどがある大規模な公園・広場等が指定されています。



【第一次避難所】

宮城小学校 江南中学校 小台橋高校

第一次避難所は、自宅に居住できなくなった被災者が一時的に生活する場所です。



まず、自分の身を守る

各自まわりの状況を確認しましょう

安否確認シート等を活用し
状況報告しましょう

安否確認

自宅で待機します

避難指示

マンション自体が耐火構造であっても、窓、出入口、その他開口部から、火災の輻射等が侵入する危険性があります。

周辺で大火災が発生し、接近してきた場合は、安全な「避難場所」に移動！



一時集合場所に集まる

避難場所に避難

火災の危険がなくなる

家に被害があるか確認

被害がない

被害があり生活できない

在宅避難

第一次避難所に避難

生活支援



人ひとりが責任ある
動がとれるように、
頃から準備や訓練し
おくことが重要です。

安否確認を
行いましょう

マンション全体の状況把握のために、各戸の安否確認が必要です。
以下に示すような「安否確認シート」を玄関ドア（廊下側）に貼り付け、
状況報告を行う方法があります（検討中）。

無事です！

救助求む！

地震発生後の
禁止事項を守り
ましょ

【禁止事項】

災害対策本部で使用可能と判断し、案内するまで下記は使用禁止です

- ・トイレや台所等すべての水周りでの排水は禁止
(排水管の破損があると漏れ・逆流の恐れがあるため)
- ・エレベーターは使用禁止（余震時に止まる恐れがあるため）

【災害対策本部からの連絡】

- ・掲示板にて案内を行うかどうか検討中
- ・住民への避難指示の伝達方法は要検討

避難の際は、
落ち着いて行動
しましょ

火災は一気に燃え広がることはありません。
落ち着いて行動するようにしましょ。

- 避難時の服装などに注意しましょ。
- ・ヘルメット、防災ずきん、帽子
 - ・動きやすい服装、軍手
 - ・履きなれた底の厚い靴
 - ・夜間の懐中電灯



避難する時に、
隣近所に声を
かけましょ

避難するときには、近所の高齢者、妊婦の方、
小さな子どもがいるお宅などに、ひと声かけ
ましょ。

ひと声かけた情報（返事がなかった、不在
だった、下敷きになった人がいる可能性な
ど）は大切な情報になります。避難場所、第
一次避難所にみんなで情報を持ち寄りまし
う。



在宅での生活が
可能な場合は、
在宅での避難を
推奨します

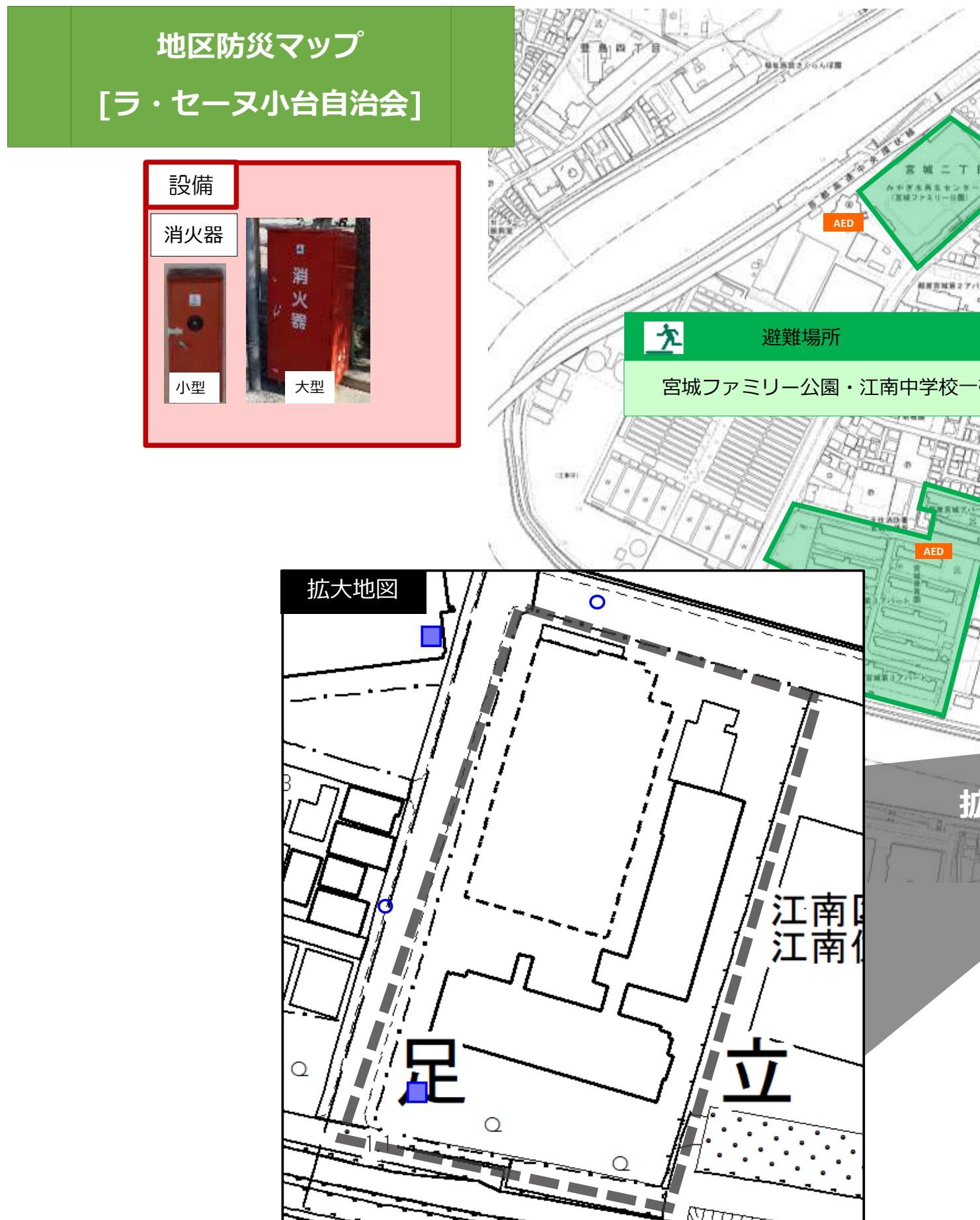
第一次避難所での生活は快適とは言えず、環境の変化などによって
体調を崩す人もいます。食料や水など必要なものを日頃から備える
など、在宅での避難のための準備が大切です。

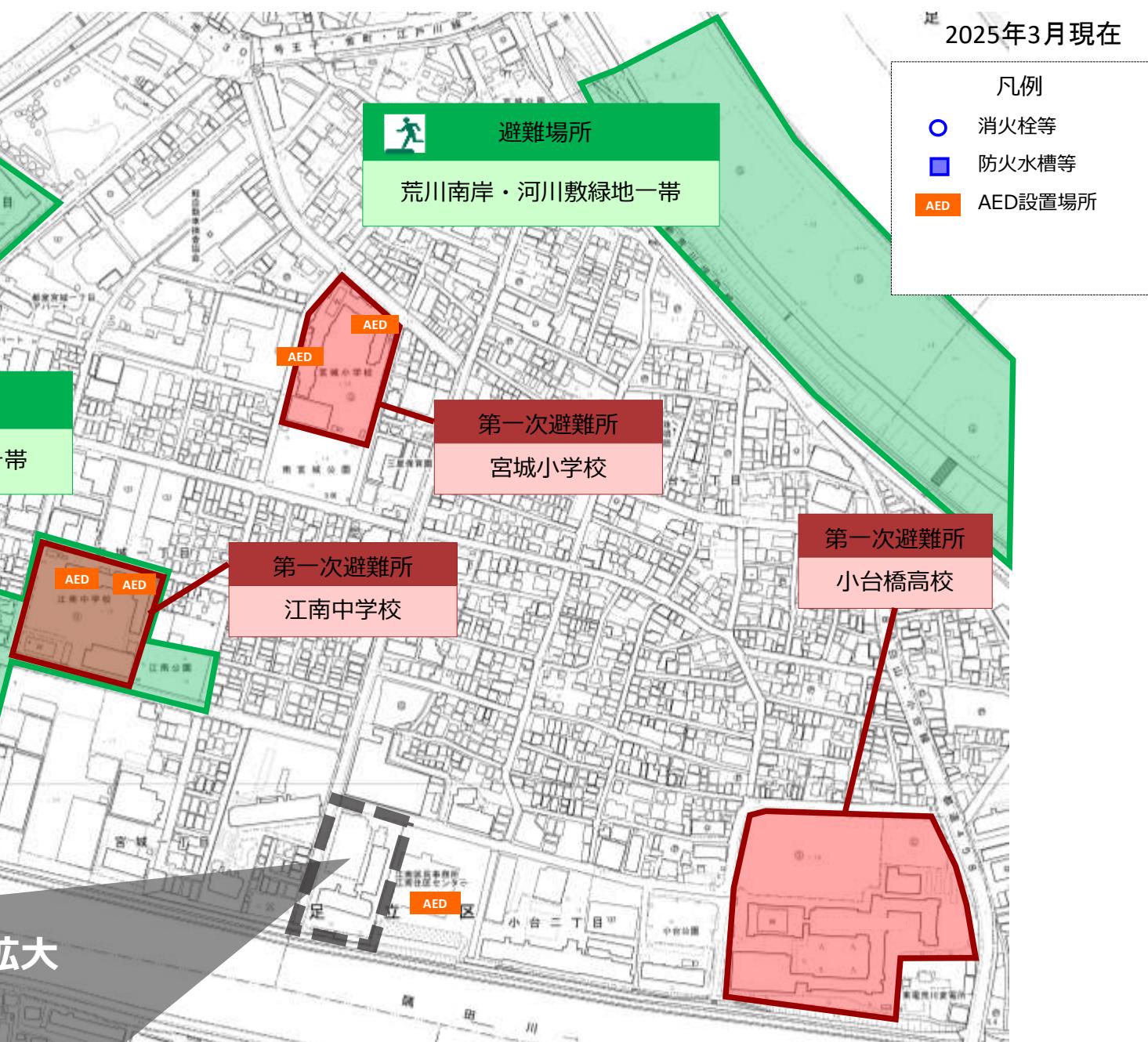
また、避難生活においては、災害対策本部からの情報を
適時確認してください。

- ・救援物資等の配給等の情報
- ・各種禁止事項の解除等の連絡

各戸においてもラジオ（FMラジオ）や足立区防災無線
情報等で、積極的に情報収集しましょ。



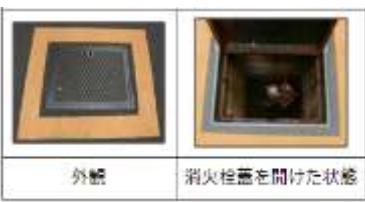




※この地図は、東京都縮尺1/2,500地形図(令和3年度DVD版)を使用したものである。

消火栓

水道本管に直結する方法で、
消防車両に消防用水を供給する施設。
スタンドパイプを結合し、放水できる。



防火水槽

防火のために地下等に貯水してある水槽(写真左)で、
ポンプで吸い上げて消火に利用する。
地震時、消火栓の配管が壊れ、使えなくなった際にも有効。
D級ポンプ(写真右)等を使用し、揚水・放水できる。



5 ラ・セーヌ小台自治会における平時の備え

(1) 事前対策リスト

災害時の備えを事前にチェックできるよう、自助と共助に分けて事前対策をチェックリストにしました。

■事前対策リスト(自助)

家の 中の 安全	<input type="checkbox"/> 足立区の洪水ハザードマップを目の届くところに置く。
	<input type="checkbox"/> 自分の地域の水害リスク(浸水深、継続時間等)及び自分や家族の避難行動(先)を確認する。
	<input type="checkbox"/> 台風発生時以降の情報収集の方法を確認する。
	<input type="checkbox"/> 排水溝や雨どいの点検・清掃を行う。
	<input type="checkbox"/> 浸水防止策として、土のうを用意する。
避 難 ・ 救 護	<input type="checkbox"/> 安否確認用ステッカー
	<input type="checkbox"/> ホイッスル(閉じ込め時に音を発するため)
	<input type="checkbox"/> 災害伝言用ダイヤルなど家族の連絡方法の確認
	<input type="checkbox"/> 応急医薬品(絆創膏、消毒薬、傷薬、包帯、胃腸薬、鎮痛剤、解熱剤、目薬、持病のある人は常備薬など)
水 や 食 料	<input type="checkbox"/> 飲料水は1人1日3リットルを最低3日分、7日分を推奨
	<input type="checkbox"/> 水用携行タンク(飲料水の配給時に必要)
	<input type="checkbox"/> 食糧(レトルト、缶詰、インスタント食品、栄養補助食品、チョコレート等の菓子、最低3日分、7日分を推奨)
	<input type="checkbox"/> 生活用水(飲料しない水)は、フロの汲み置き、やかんやポットに水を入れておく。
	<input type="checkbox"/> 粉ミルク、離乳食(乳幼児がいる場合)、アレルギー対応食品
	<input type="checkbox"/> ガスカセットコンロ、予備のガスボンベ
持 常 用 出	<input type="checkbox"/> ラップ(食器にかぶせて使えば洗わなくてよい)
	<input type="checkbox"/> 紙皿、紙コップ、割り箸
	<input type="checkbox"/> 現金、クレジットカード
	<input type="checkbox"/> 貯金通帳、キャッシュカード
非 常 用 出	<input type="checkbox"/> マイナンバーカード、年金手帳
	<input type="checkbox"/> 免許証、保険証、お薬手帳
	<input type="checkbox"/> 軍手、歩きやすい靴
	<input type="checkbox"/> ヘルメット、防災頭巾
避 難 生 活 用 品	<input type="checkbox"/> 生理用品
	<input type="checkbox"/> 折りたたみ傘、レインコート
	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ(便袋)(1人1日5~7回分を最低3日分、7日分を推奨)
	<input type="checkbox"/> ガムテープ
	<input type="checkbox"/> トイレットペーパー(余分に備蓄)
	<input type="checkbox"/> ドライシャンプー
	<input type="checkbox"/> ティッシュ(余分に備蓄)
	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ
	<input type="checkbox"/> 懐中電灯、ランタン、マッチ、ライター
	<input type="checkbox"/> マスク
も の 便 利 な	<input type="checkbox"/> ラジオ
	<input type="checkbox"/> 衣類
	<input type="checkbox"/> 電池(余分に備蓄)
	<input type="checkbox"/> 生理用品
用 品 一 括	<input type="checkbox"/> 毛布
	<input type="checkbox"/> 紙おむつ
	<input type="checkbox"/> 虫よけ用品
	<input type="checkbox"/> 雨具
用 品 一 括	<input type="checkbox"/> ビニールシート(敷物、雨よけ)
	<input type="checkbox"/> 新聞紙(防寒、燃料)
	<input type="checkbox"/> 貴重品リスト
	<input type="checkbox"/> リュック(物資の持ち運び用)
用 品 一 括	<input type="checkbox"/> 情報収集先リスト(自治体ホームページ等)
	<input type="checkbox"/> 防災マップ
	<input type="checkbox"/> ソーラーまたは手動充電器(携帯、電池用)
用 品 一 括	<input type="checkbox"/> 防災カード(住所、氏名、連絡先、既往症、通院先、薬アレルギー等)
	<input type="checkbox"/> 家庭用発電機
	<input type="checkbox"/> 工具類
用 品 一 括	<input type="checkbox"/> 蓄電池
	<input type="checkbox"/> 公衆電話用10円硬貨
	<input type="checkbox"/> ペットフード、水、食器
用 品 一 括	<input type="checkbox"/> 排便処理用品
	<input type="checkbox"/> リード
用 品 一 括	<input type="checkbox"/> ペット名札、手帳

避難所では、支給できる物資には限りがあります。特に、乳幼児や障がい者、持病やアレルギーをお持ちの方、ペットを飼われている方など、それぞれの家庭に合った備蓄・準備が必要です。

■事前対策リスト(共助)

地域の共通課題である「避難対策」に絞って、基本的な事項をチェックリストにしました。

避難対策に必要な項目	チェックリスト	備考
避難場所と避難所	<input type="checkbox"/> 避難所を確認しておく。 <input type="checkbox"/> 緊急避難建物を確認しておく。 <input type="checkbox"/> 広域避難の方向（高台など）を確認しておく。	避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告等の情報に基づき避難。水害が小規模と想定される場合は、在宅避難。
避難経路	<input type="checkbox"/> 避難場所と避難所に行く経路を決めておく。	経路は通れなくなった場合を考慮して複数設定
避難に向けた情報収集	<input type="checkbox"/> 避難経路や避難先を決めるために必要な情報の収集方法を決めておく。	一目で町内の被害状況を把握できるマンションに登る、など
	<input type="checkbox"/> テレビ（ワンセグ）や携帯ラジオなどで災害情報が得られますか。	
避難先と避難経路を選択して避難開始	<input type="checkbox"/> 避難先までの経路を歩いて危険箇所をチェックしておく。	班長など、先導者が誘導
声をかけながら避難	<input type="checkbox"/> 声掛けに便利なものを用意しておく。 <input type="checkbox"/> 担当者を決めて持ち出せるようにしておく。	拡声器、メガホン、要配慮者の名簿やマップなど
要配慮者への手助け・支援の要請	<input type="checkbox"/> 要配慮者の手助け方法や支援要請先を調べておく。	警察、消防団などへ連絡 民生・児童委員との連携
避難先で自治会単位で安否の確認	<input type="checkbox"/> 避難先では、自治会単位で集合し、安否確認することを決めておく。	避難先で班長が集まって自治会全体の安否を確認 避難していない在宅避難者もできるだけ把握
行方不明者の救助・救援の要請	<input type="checkbox"/> 救助・救援の要請先を調べておく。	区、消防団、警察などへ連絡
応急対応一段落後※、自治会の災害対策本部を設置	<input type="checkbox"/> 災害対策本部の組織と役割分担を決めておく。	救命救助、緊急避難等の応急対応が優先
避難所の運営	<input type="checkbox"/> 避難所運営体制を決めておく。	自治会を超える場合もあり
帰宅困難者への対応	<input type="checkbox"/> 帰宅困難者の一時滞在施設を把握しておく。	帰宅困難者には一時滞在施設の開設場所を伝える

※自治会の災害対策本部の設置は応急対応一段落後を想定しましたが、災害の状況に応じて臨機応変に対応してください。

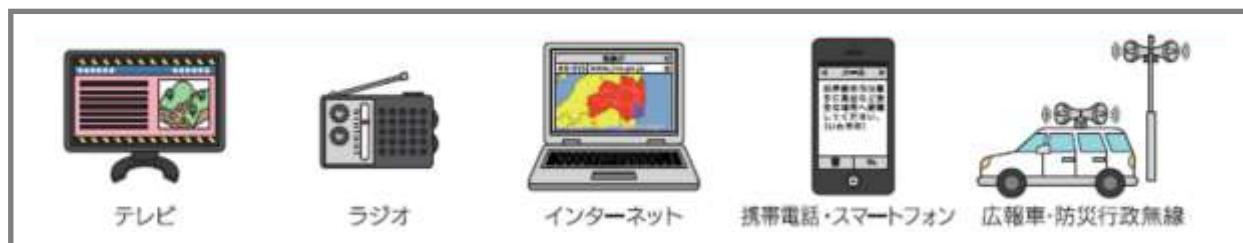
(2) 日頃の取り組み

①情報収集方法の確認

テレビ、ラジオ、インターネット(区のホームページ等)、区の防災メール※、消防団による車両広報などの災害情報の入手手段を、日常から確認します。

※災害情報をはじめ、足立区の様々な情報を携帯電話やパソコンのメールアドレス宛に送付するA-メール(足立区メール配信サービス)や、緊急かつ重要な情報を指定エリア内(足立区内)の携帯電話に一斉に配信する緊急速報メール(エリアメールサービス)、足立区LINE公式アカウントなどがあります。

気象情報や区から発信される情報の入手手段



②非常持出品や備蓄の準備

災害に備えて、各世帯での非常持出品や備蓄の準備を進めます(P36「事前対策リスト」)。

③防災訓練

ラ・セーヌ小台自治会による防災訓練を実施し、自助としての初動行動・避難行動の確認、共助としての避難生活支援等の取り組みを、消防署等の関係機関と協力しながら実践します。

訓練では、水害の状況に応じた避難(避難先、避難路、要配慮者への支援、本部の設置など)について取り組みます。

④活動体制の整備

日ごろから進めている小台・宮城地区の防災の取り組みと歩調を合わせながら、ラ・セーヌ小台自治会における防災組織として、「庶務係」「初動対応係」「救出・救護係」「物資配分係」等の係編成を設定し、具体的な役割や活動を構築して災害時の活動の実効性を高めていきます。

⑤要支援者の連絡・支援体制の準備

要支援者の連絡・支援体制の準備を進めます。災害時に一人では避難が困難な要支援者については、区から提供される避難行動要支援者名簿を効果的に活用できるように、あらかじめ取り扱い方法などを決めておくようにします。

平時からの声かけや災害時の避難誘導訓練について、周知や参加を呼びかけます。また、要支援者避難支援のための資機材の準備に取り組みます。

⑥コミュニティタイムラインの検討

水害は、台風などが発生してから被害が生じるまで時間があり、「先を見えた対応」により減災が可能です。タイムラインの考え方の基本はここにあります。

今後は、地区住民等の視点からみた「コミュニティタイムライン」について検討を進めることとし、現時点での検討結果をP29に示しました。

引き続き、地区タイムラインについての検討を行います。

※ 様式・資料編

資料 1 様式集

参考様式 1 緊急時連絡先一覧表

区分	連絡先	連絡先担当部署	TEL
緊急連絡先	区役所		
	消防署		
	警察署		
	電気		
	ガス		
	上水道		
	下水道		
	電話局		
避難関係	避難所 ()		
	避難所 ()		
	避難所 ()		
	病院		

参考様式2 備蓄品リスト

区分	品名	規格	数量	保管場所	点検日	点検者
食糧						
水						
日用品						
消火用具						
救出救助用資機材						
その他						

参考様式 3 自治会年間スケジュール

- ・年間スケジュールは任意様式とする。
- ・従来、自治会で運用してきた年間スケジュールに、防災関係の予定（防災訓練等）を盛り込むものとする。

年間スケジュール（ 年度）（例）

年	月	自治会スケジュール	防災関係スケジュール
年	4月		
	5月		
	6月		
	7月		
	8月		
	9月		
	10月		
	11月		
	12月		
年	1月		
	2月		
	3月		

参考様式 4 防災区民組織名簿

防災区民組織役員名簿

役 職	氏 名	住 所	電 話
本部長（会長）			
副本部長 (副会長)			
総務部	部長		
	副部長		
情報部	部長		
	副部長		
防火部	部長		
	副部長		
救護部	部長		
	副部長		
避 難 誘導部	部長		
	副部長		
給食部	部長		
	副部長		

資料2 スマートフォン用防災アプリ「足立区防災アプリ」

「足立区防災アプリ」は、防災関係の機能を一つにまとめたスマートフォン対応アプリです。令和4年4月にリニューアルしました。



【足立区防災アプリの機能】

- ① 避難所の開設・混雑状況をマップ付き、リアルタイムで知ることができます。
- ② 非常時の情報をプッシュ通知でお知らせします。
- ③ GPS機能により、地図で現在位置、避難所の位置などを確認できます。
- ④ 各種ハザードマップや防災マップを搭載しています。

ダウンロードはこちらから⇒

iPhone 端末



Android 端末



同内容のPCサイト（足立区災害ポータルサイト） <https://bosai.city.adachi.tokyo.jp/>

資料3 A-メール（足立区メール配信サービス）

区政情報や子どもの安心情報など、足立区についての様々な情報を、あらかじめ登録された携帯電話やパソコンのメールアドレス宛にお送りします。

足立区ホームページや下記のメールアドレスに空メール（本文に何も書かずに送るメール）を送信し、送られてきたメールに表示されたURLにアクセスし、登録することができます。

t-adachi@sg-p.jp



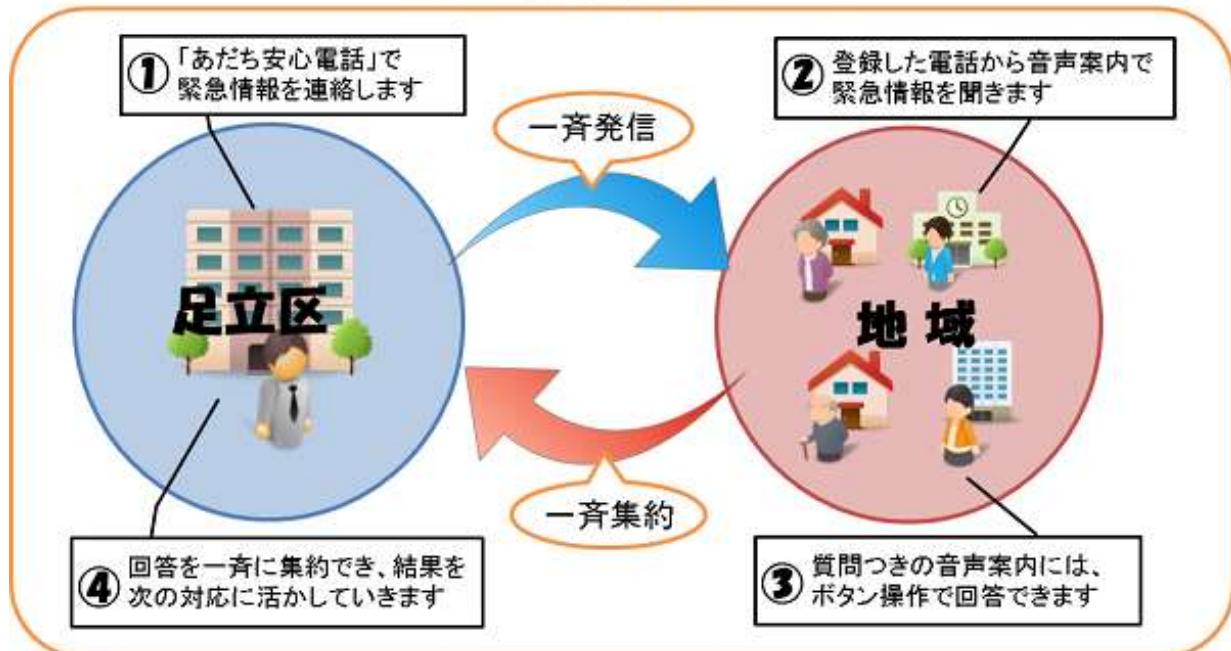
- ・「災害情報・気象警報」「大雨・洪水注意報」「雷注意報」で配信される警報・注意報や、「地震情報」「河川の増水氾濫情報」は、気象庁の発表と連動させ、自動的に配信しています。

資料4 あだち安心電話

河川の水位状況や避難所開設情報等を確実にお届けするため、電話を活用した情報伝達システム「あだち安心電話」を導入し、希望するすべての区民の方（事業者を含む）の登録を隨時受け付けています。

いざという時の準備として、ぜひご登録ください。

あだち安心電話イメージ



下記の方法で申込むことができます。

① ホームページ「登録申込みフォーム」でご登録



②報道広報課（足立区役所本庁舎南館9階）または、各区民事務所（中央本町区民事務所を除く）に直接「登録申込書」をご提出ください。

③「登録申込書」を報道広報課にご郵送ください。

【申込書郵送先】

足立区報道広報課デジタル情報・広告係

〒120-8510 足立区中央本町 1-17-1

TEL : 03-3880-5514

資料 5 感震ブレーカーの設置助成

足立区では、災害時に避難所等へ避難している間、電気が復旧した際に発生する「通電火災」対策に有効な手段として、設定値以上の震度の地震発生時に自動的に電気の供給を遮断する「感震ブレーカー」を設置した場合に、費用の一部を助成する制度を設けています。

感震ブレーカーは、震度 5 強相当の地震をセンサーが感知したとき、警報を発し、約 3 分後にブレーカーを落として、電力供給を遮断する器具です。

令和7年7月15日から以下の助成制度が始まります。

(1)助成対象地域と対象建築物

- ①足立区全域
- ②木造の住宅

(2)対象世帯

①一般世帯

木造の住宅で居住する個人もしくは木造賃貸住宅所有者（法人を除く）

②特例世帯

上記①一般世帯の木造の住宅で居住する個人のうち、次のいずれかに該当する世帯

- ・65歳以上の方が含まれる
- ・要介護者が含まれる（要介護 3～5）
- ・障がい者が含まれる
(身体障害 1～4 級、精神障害 1～3 級、知的障害愛の手帳総合判定で 1～4 度)
- ・非課税者のみ

詳しくは、足立区ホームページ（感震ブレーカーの設置助成）をご覧いただくな、または下記の担当窓口にお問い合わせください。

【問合せ窓口】

足立区建築防災課耐震化推進第一・第二係

（足立区役所本庁舎中央館 4 階）

TEL 03-3880-5317（直通）

<参考>旧制度

令和 7 年 6 月 30 日申し込み終了の旧制度については以下を参照。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/k-bousai/machi/kansinburekah29.html>

資料 6 防災無線のテレホン案内

足立区では、災害時等に速やかに情報を伝達する手段として、防災行政無線屋外拡声装置（スピーカー）を設置しています。「放送が聞き取れなかった」「もう一度聞きたい」ときに、放送内容を電話で確認することができるサービスが、「防災無線テレホン案内」です。

ご利用方法

(1)下記の電話番号にお電話ください。

足立区防災無線テレホン案内：0120-966-944

(2)24時間以内に放送された最新の放送が繰り返し流れます。

(3)通話料は無料となります。

※ 防災無線の放送内容は、下記ホームページからも確認できます。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/cgi-bin/bousai/list.cgi>



資料 7 足立区 LINE 公式アカウント

足立区では、令和2年9月14日に「足立区LINE公式アカウント」を開設しました。

「足立区LINE公式アカウント」では、災害に関する情報（避難勧告や避難所開設情報等）や緊急情報などのお知らせをリアルタイムに発信します。情報を受け取るには、SNSアプリ「LINE（ライン）」での友だち登録（利用者登録）が必要です。いざという時に備えて、ぜひご登録ください。

ご利用方法

(1)ご利用には「LINE（ライン）」での「友だち登録」が必要です。詳しくは下記ホームページをご覧ください。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/hodo/line/index.html>



(2)主な配信情報

・台風や地震などの災害に関する情報（避難勧告や避難所開設情報等）

・緊急でお知らせしたい重要な情報

・「あだち広報」発行情報（月2回）

等々

順次、便利にお使いいただける新たなサービスを検討していきます。

(3)災害情報など緊急でお知らせしたい重要な情報は、LINE、Aメールどちらにも配信します。



資料8 浸水ナビ（地点別浸水シミュレーション検索システム）

国土交通省では、浸水想定区域図を電子地図時用に表示するシステムとして、浸水ナビ（地点別浸水シミュレーションシステム）を公表しています。（<https://suiboumap.gsi.go.jp/>）

浸水ナビを用いることで、河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域及びその区域が浸水した場合に想定される水深を把握することができます。

以下の手順で検索ができます。

1. Web ブラウザの検索ツール(google や yahoo 等)で「浸水ナビ」と検索します。

（URL を <https://suiboumap.gsi.go.jp/> と入力すると、該当ページに直接アクセスできます。）

2. 国土交通省の「浸水ナビ」のページを選択し



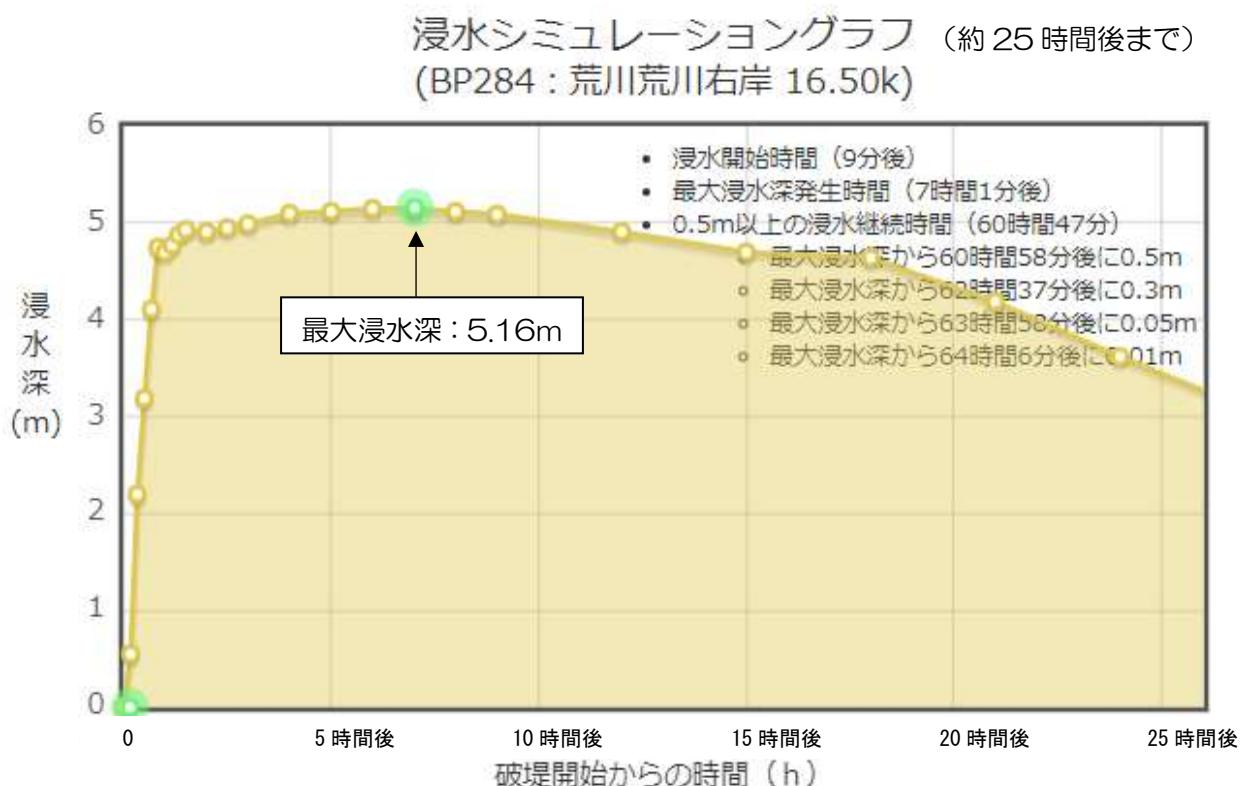
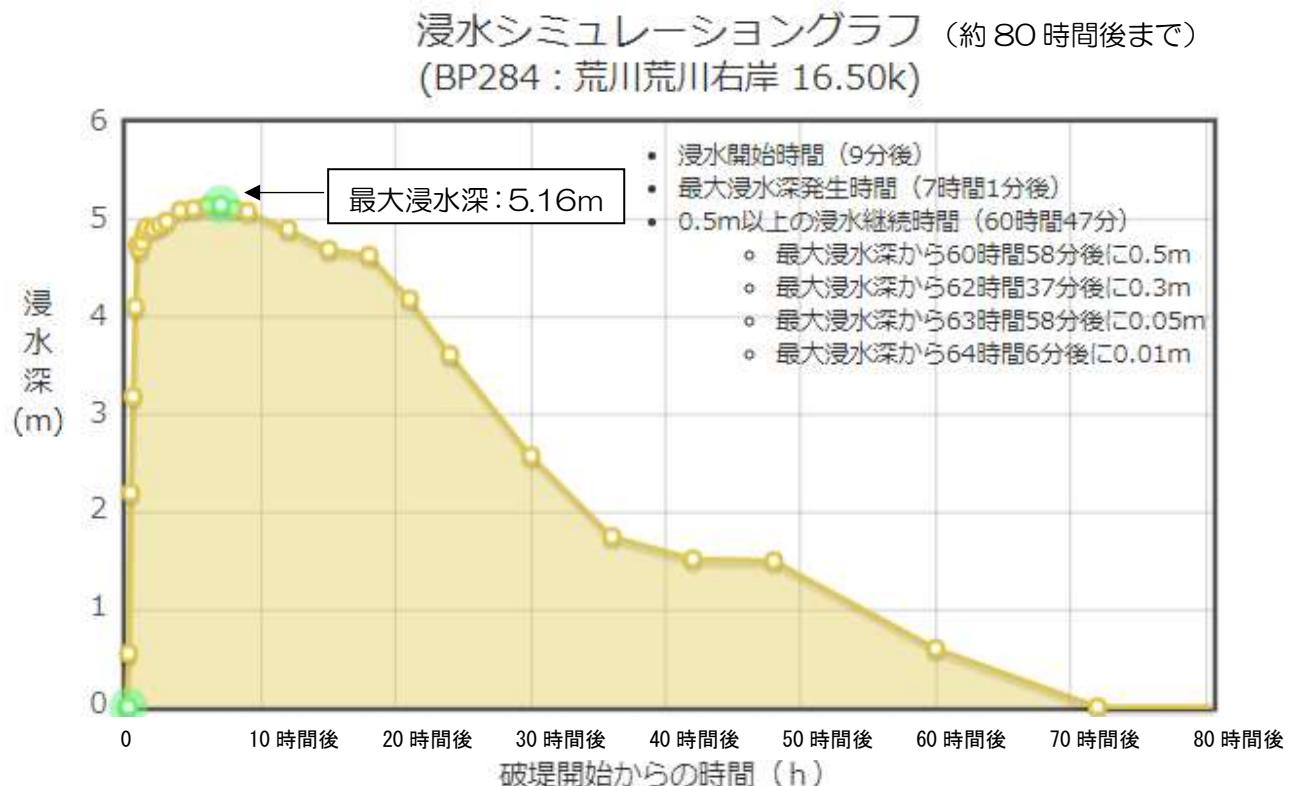
をクリックします。

小台二丁目のラ・セーヌ小台付近を検索地点（下図の黒い×印）として設定し、最大の浸水深さが想定される、下図の赤い×印（荒川右岸 16.5km）で破堤した場合の浸水域シミュレーショングラフを次に示しました。（浸水ナビの場合は破堤は1地点ですが、ハザードマップは複数の想定です。）



小台二丁目のラ・セーヌ小台付近における最大の浸水深さが想定される場合の浸水域シミュレーショングラフは、以下のとおりです。同じ内容ですが、時間幅を変えた2種類の図を示しました。

最大浸水深さは、破堤からおよそ7時間後に5.16mとなっています。ただし、破堤から20分後には浸水深は2.2m、30分で3.19m、50分で4.75mに達します。



資料9 東京備蓄ナビ

東京都では、いつ起こるか分からない災害に備えて、家庭での「日常備蓄」を呼びかけています。

「東京備蓄ナビ」は、家族構成などの簡単な質問に答えるだけで、各家庭に応じた、必要な備蓄品目・数量をお知らせし、ショッピングサイトや実店舗での購入をスムーズにするウェブサイトです。

「災害に備えた備蓄」と聞いてもピンとこない方や、興味はあるけど何をどのくらい備蓄すればよいのかわからない方向けに、備蓄のイロハや備えておくと良い品目などをご紹介しています。

下記のホームページにアクセスしてご利用ください。

<https://www.bichiku.metro.tokyo.lg.jp/>



主なウェブサイトの内容

(1) 簡単な質問に答えるだけで必要な備蓄品目・数量リストを表示

家族構成（性別・年代）や住まいの種類などの質問に回答するだけで、必要な備蓄品目・数量の目安 7 日分がリスト化されて表示され、LINE などでリストの共有も可能です。

(2) ショッピングサイトとリンクし備蓄品を直接購入可能

備蓄品目・数量リストに応じた備蓄品（商品）を、「東京備蓄ナビ」と連携するショッピングサイトにおいて直接購入できます。

(3) 防災や備蓄に役立つコンテンツ記事を配信

自分の地域のハザードマップを確認できるほか、初めて備蓄に取り組む方などに、基本的な考え方やポイント等を分かりやすく解説しています。

Memo